

KONAN



平成20年度 事業報告書

平成20年4月1日～平成21年3月31日まで

学校法人 **甲南学園**

甲南大学 甲南高等学校 甲南中学校

K O N



甲南大学、甲南高等学校・中学校を設置する甲南学園は、1919(大正8)年の旧制甲南中学校の設立にさかのぼります。

甲南を支える大きな精神的支柱である
創立者の平生鈺三郎先生は、

本校ハ学校教育ノ現状ニ満足セザル有志ノ者共ガ集マツテ、
知育偏重ノ弊ヲ避ケ、「人格ノ修養」「健康ノ増進」ヲ第一義トシ、
「個性ヲ尊重シテ天賦ノ特性ヲ啓発スベク、
知的教育ヲ施サン」トノ主旨ヲ以テ創立イタシマシタ

高等学校第1回卒業式/1926(大正15)年

と述べています。

本学園は、現在も尚、この気概と品格ある平生精神をもとに、
教育・研究の質を高め、本学園の社会的使命を達成する
ことを目指しています。

学校法人甲南学園

理事長 吉沢英成

はじめに

皆様には、ますますご清祥のこととおよろこび申し上げます。本学園の平成20年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。甲南学園は、私学を取り巻く厳しい環境の変化を、甲南教育の個性を發揮する絶好の「機会」と捉え、規模の拡大を追求のではなく、教育の質の深化を目指して、個性溢れる学園づくりに努めてまいりました。中期経営計画3年目にあたる平成20年度は、同計画に掲げる主要事業①知能情報学部の開設及び理工学部の再編②西宮キャンパスの整備及び「マネジメント創造学部」の開設準備③ポートアイランドキャンパスの整備及び「フロンティアサイエンス学部、同研究科」並びに先端生命工学研究所のポートアイランドキャンパス移転④学園創立90周年記念募金事業を成功させることを最重要の課題として取り組みました。これらの取組をおとして、甲南の追求すべき平生の夢「甲南100年の計」を実現するための第一歩を踏み出しました。皆様におかれましては、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

中期経営計画(平成18年度～平成22年度)

大学関係

- ①「人物教育率先」に基づき、今、大学教育に求められている質に先駆的に挑戦する新学部の開設
 - 知能情報学部開設
 - 平生鈺三郎記念「マネジメント創造学部」甲南CUBE西宮開設準備
 - FIBER(先端生命工学研究所)がリードするFIRST「フロンティアサイエンス学部・フロンティアサイエンス研究科」甲南FAMEポートアイランド開設準備
- ②特色ある甲南教育プログラムの推進
- ③「甲南90周年栄誉スカラシップ」など奨学金・表彰制度の充実
- ④独創性溢れる研究・社会貢献・地域連携活動の展開
- ⑤学生生活の質を高める環境整備

高等学校・中学校関係

- ①平生精神をバックボーンとする中高6年一貫(2-2-2、基礎・応用・発展)の教育システムの構築
- ②日常の学習意欲喚起の体制づくり
- ③スポーツなど課外活動の活性化による徳・体・知力の増進
- ④海外提携校との交換留学・交流活動による国際感覚の涵養
- ⑤教員組織の教育力の増進

法人関係

- ①経営基盤整備
 - 中期経営計画遂行のための学園資金計画(新学部の完成年度までを含む)の策定及びその実行
 - 各年度予算策定における長期的ガイドラインの再確認
 - 事務組織体制の活性化
- ②「個性を力へ。」を標語とする学園の戦略的広報活動の展開
- ③学園創立90周年記念事業(「人物教育率先」創立者平生鈺三郎記念教育振興、六甲アイランド総合体育施設整備、高等学校・中学校新体育館整備)募金の展開

甲南学園のあゆみ

個性尊重の理念を掲げて開学。この90年間にわたり、その独自の教育を深め、確立してきました。



学園創立者
平生鈺三郎

平生鈺三郎は、1866年武門に生まれ、東京海上火災保険をはじめとする損害保険業界の近代化に貢献、川崎造船所を再建するなど実業界で広く活躍しました。甲南病院の設立など社会事業にも深く関わり、政治においては、広田内閣の文部大臣として義務教育の年限延長、師範教育の改善を強く提唱しました。教育理念として、「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重し、各人の天賦の特性を伸張させる」を掲げ、甲南中学校、さらに7年制の甲南高等学校を創立しました。

2009年の今年
創立90周年を
迎える甲南学園

- 1918 財団法人甲南学園
私立甲南中学校設立認可
- 1919 私立甲南中学校開校
- 1923 7年制甲南高等学校開校
- 1948 新制甲南高等学校に移行
- 1951 甲南大学設置認可、甲南大学開学
文理学部設置
- 1952 経済学部増設

A N

甲南学園の構成

設置する学校・学部・大学院等(平成21年3月31日現在)

■ 甲南学園				
甲南大学・大学院				
学部 学科	文学部	<input type="checkbox"/> 日本語日本文学科 <input type="checkbox"/> 社会学科 <input type="checkbox"/> 歴史文化学科	<input type="checkbox"/> 英語英米文学科 <input type="checkbox"/> 人間科学科	
	理工学部	<input type="checkbox"/> 物理学科 <input type="checkbox"/> 機能分子化学科	<input type="checkbox"/> 生物学科	
	経済学部	<input type="checkbox"/> 経済学科		
	法学部	<input type="checkbox"/> 法学科	<input type="checkbox"/> EBA総合コース	
	経営学部	<input type="checkbox"/> 経営学科		
	知能情報学部	<input type="checkbox"/> 知能情報学科		
大学院	人文科学研究科	修士	博士	
		<input type="checkbox"/> 日本語日本文学専攻 <input type="checkbox"/> 英語英米文学専攻 <input type="checkbox"/> 応用社会学専攻 <input type="checkbox"/> 人間科学専攻	<input type="checkbox"/> 日本語日本文学専攻 <input type="checkbox"/> 英語英米文学専攻 <input type="checkbox"/> 応用社会学専攻 <input type="checkbox"/> 人間科学専攻	
	自然科学研究科	<input type="checkbox"/> 物理学専攻 <input type="checkbox"/> 化学専攻 <input type="checkbox"/> 生物学専攻 <input type="checkbox"/> 情報システム工学専攻	<input type="checkbox"/> 物理学専攻 <input type="checkbox"/> 生命・機能科学専攻 <input type="checkbox"/> 情報システム工学専攻	
		社会科学研究科	<input type="checkbox"/> 経済学専攻 <input type="checkbox"/> 経営学専攻	<input type="checkbox"/> 経営学専攻
		法学研究科	<input type="checkbox"/> 法務専攻(法科大学院)	
	ビジネス研究科	<input type="checkbox"/> 会計専攻(会計大学院)		
専門職 大学院	法学研究科	<input type="checkbox"/> 法務専攻(法科大学院)		
	ビジネス研究科	<input type="checkbox"/> 会計専攻(会計大学院)		
	センター 研究所 図書館	<input type="checkbox"/> キャリアセンター	<input type="checkbox"/> 情報教育研究センター	<input type="checkbox"/> 国際言語文化センター
		<input type="checkbox"/> 広域副専攻センター	<input type="checkbox"/> スポーツ・健康科学研究センター	<input type="checkbox"/> 国際交流センター
		<input type="checkbox"/> 教職教育センター	<input type="checkbox"/> カウンセリングセンター	<input type="checkbox"/> EBA高等教育研究所
		<input type="checkbox"/> CUBE高等教育研究所	<input type="checkbox"/> 人間科学研究所	<input type="checkbox"/> フロンティア研究推進機構
<input type="checkbox"/> 先端生命工学研究所		<input type="checkbox"/> 総合研究所	<input type="checkbox"/> ビジネスイノベーション研究所	
<input type="checkbox"/> 企業法務研究所		<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> サイバーライブラリ	
甲南高等学校・中学校				

甲南学園が設置母体の在外教育機関(フランス)

■ フランス甲南学園トゥレーヌ	
高等部・中等部	

- | | |
|--|---|
| 1957 文理学部を文学部と理学部に分離 | 2001 理学部を理工学部に名称変更 |
| 1960 法学部・経営学部増設 | 2002 経済学部・経営学部にEBA総合コースを開設 |
| 1963 甲南高等学校・中学校が岡本から芦屋市に移転 | 2004 大学院法学研究科(法科大学院)設置 |
| 1964 大学院人文科学研究科、自然科学研究科設置 | 2006 大学院ビジネス研究科(会計大学院)増設 |
| 1965 大学院社会科学研究科開設 | 2008 知能情報学部増設 |
| 1991 トゥレーヌ甲南学園(現フランス甲南学園トゥレーヌ)高等部・中等部を開校 | 2009 西宮キャンパス新設 マネジメント創造学部増設
神戸ポートアイランドキャンパス新設 フロンティアサイエンス学部・同研究科増設 |

はじめに 1

- はじめに
- 甲南学園のあゆみ
- 甲南学園の構成

I 事業の概要 3

- ハイライト 3
 - 01 新学部の設置・開設準備
 - 02 六甲アイランド総合体育施設の再開発計画を策定
 - 03 学園創立90周年記念事業募金7億円突破
 - 04 甲南平生国際フォーラムを開催
- 大学・大学院 7
- 高等学校・中学校 13
- 法人 14

II 財務の概要 15

- 平成20年度決算の概要
- 資金収支全体概要
- 平成19年度決算・平成20年度予算及び決算の比較
- 資金収支計算書(学園総括)
- 消費収支計算書(学園総括)
- 消費収支決算(部門別内訳)・構成比率
- 貸借対照表
- 消費収支決算の推移(学園総括)
- 財務状況の推移(学園総括)
- 財務比率の推移(学園総括)

III 法人の概要 23

- 名称
- 法人設立の年月日
- 設置学校
- 役員
- 土地と建物
- 専任教職員数
- 学生・生徒数
- 卒業生累計数
- 事務組織図

01 新学部の設置・開設準備

■ 知能情報学部の開設

平成20年4月、半世紀ぶりの新学部「知能情報学部」を開設し、4月4日には新学部の学舎13号館に136名の新入生を迎えて歓迎式典を開催しました。本学は、昭和34年、理学部に経営理学科を開設、昭和36年には全国の私立大学に先駆けて、電子計算機を大学教育に導入しました。その後、平成13年に知能情報学部の母体となる理工学部情報システム工学科を設置し、情報社会で活躍する有為な人材を送り出してきました。

知能情報学部は、これまでの情報システム工学の学問的蓄積に加え、単独の学部として極めて珍しい「インテリジェンス」をテーマに掲げた学部です。情報通信・人間知・機械知の3つのコースを設定し、徹底したインタラクティブ（双方向）教育によって、本学の教育理念である徳・体・知のバランスのとれた骨太の人間力と高度なIT技術を兼備した、国際情報社会で活躍できるプロフェッショナルを育てます。



■ マネジメント創造学部の設置（平成21年4月）届出・西宮キャンパス竣工

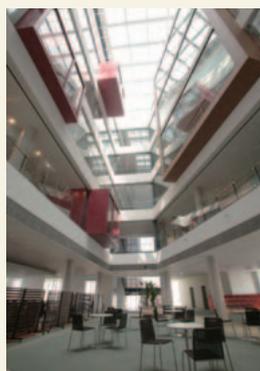
経済・経営の分野を中心に、国際性豊かな少人数教育で、新しい大学教育を提供するマネジメント創造学部（愛称：CUBE）の開設準備を進め、平成20年6月30日に同学部の設置届出が文部科学省に受理されました。

平成19年6月、西宮市高松町（阪急西宮北口駅南側）に着工した「甲南CUBE西宮」の学舎は、平成20年12月に完成し、竣工式

の翌日、早速、オープンキャンパスを行いました。このキャンパスでは、ノートパソコンや携帯電話を講義やキャンパスライフに活用する設備を整え、教員の研究室を学生にオープンな場にするなどの工夫がされています。

CUBEのミッションは、従来の大学教育の枠にとらわれない学びを提供することで、「学生が成長できる学部」、「大学の未来の発展を担う学部」、「地域社会に貢献する学部」の3つの教育コンセプトを実現し、甲南大学に「新しい風」を吹き込むことです。

CUBEの特徴は、少人数のチームで取り組むプロジェクト型の教育スタイルで、一方的に講義を聞くのではなく、プロジェクトに参加することで、「自ら考え行動する力」を養います。また、教員の半数以上



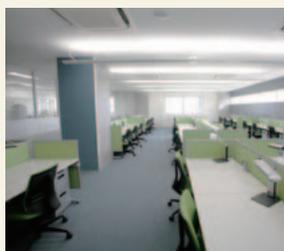
が海外の大学・大学院で学位を取得しており、豊かな人生経験を活かして学生の好奇心に火をつけます。今後は海外でインターンシップやボランティアなどに参加できる制度を充実させ、学生が社会で経験する機会を増やします。こうした教育によって、10年後の社会の変化に対応できる「生き抜く力」を養っていきます。

■フロンティアサイエンス学部・同研究科の設置(平成21年4月)届出・ ポートアイランドキャンパス竣工

甲南大学の研究機関・先端生命工学研究所(愛称:FIBER)と連携し、バイオテクノロジーとナノテクノロジーを融合した新しい学問である「ナノバイオ」を学ぶフロンティアサイエンス学部・同研究科(愛称:FIRST)の開設準備を進め、平成20年6月30日に同学部・同研究科の設置届出が文部科学省に受理されました。

平成20年3月、ポートアイランド第2期地区(次世代スーパーコンピュータ設置隣接地)の神戸市中央区港島南町に着工した「甲南FAMEポートアイランド」の学舎が平成21年2月に完成しました。あわせて、甲南大学の専属の研究教員を持つ研究機関・先端生命工学研究所を同キャンパスに移転しました。

FIRSTは、「生命を、化学する」「生命で、化学する」「化学が、人間生活を豊かにする」をモットーに、生命を化学の力で解明し、その研究成果を医療、薬品、食品、化粧品など健康関連に応用し、情報や環境に向けての新材料や新素材などの開発に、生命系の研究成果を応用することを柱に研究を行います。



また、研究だけではなく、最先端のサイエンスや経済の動きに直に触れ、広い視野を養うことも重視します。そして、企業と共同研究に取り組み、研究成果が社会でどう役立つかを体験する機会やFIBERにかかわるトップレベルの研究者による講演、研究指導などの機会を提供します。

神戸市の「医療産業都市構想」や兵庫県での先端科学研究開発産業クラスター形成との連携を進め、「生命化学の研究拠点」を目指します。



02 六甲アイランド総合体育施設の 再開発計画を策定

学園創立90周年記念募金事業のひとつである六甲アイランド総合体育施設の再開発計画を策定し、平成21年度からの着工準備として、仮設更衣室の設置、現部室棟の解体を行いました。本計画は、大学運動施設としてのスタンダードレベルの実現を目指し、正課授業や課外活動において、スポーツの持つ教育力を十分に引き出すことを目的に、安全性を確保しつつ、メンタル・テクニカル・フィジカルの練磨に適した環境を実現していきます。

■南グラウンドの陸上競技場を全天候型に改修

400m×6レーン化を図り、競技会場に準じた練習環境に整備します。

■5面の人工芝グラウンドを設置

硬式・準硬式共用野球場、アメリカンフットボール・ラグロス共用グラウンド、ラグビー・サッカー共用グラウンド(ラグロス実施可)、ホッケー・ハンドボール共用グラウンド及び南側グラウンド陸上トラック内に新設するサッカー・フットサル共用グラウンドを人工芝とし、フィールド系競技グラウンドの機能の向上を図ります。

■夜間照明設備工事

既存の照明設備を活かしつつ、照明設備を追加・更新し、実際の競技レベルに近い夜間練習環境を確保します。

■上記に伴い南グラウンド部室棟及び弓道場を新設



完成予想イメージ図

03 学園創立90周年記念事業募金7億円突破

平成18年9月より開始した学園創立90周年記念事業募金は、卒業生、保護者をはじめ、同窓会及び各地甲南会、法人・団体の皆様からのご援助により、平成20年度末で、募金目標額10億円に対し、約7億円のご芳志を皆様から賜りました。

平成20年度は、募金事業の一つである「平生夙三郎記念教育振興事業」として、「人物教育率先平生拾芳奨学金制度」により「甲南90周年栄誉スカラシップ」に21名、「甲南90周年オナースカ

ラシップ」に顕著な成果を収めた団体・個人がそれぞれ選ばれました。

また、六甲アイランド総合体育施設整備事業の平成21年度実施に向け、開発計画を策定しました。

今後も、人物教育率先「甲南100年の計」の実現に向け、目標を達成すべく継続的な働きかけを図ります。

■ 募金計画概要

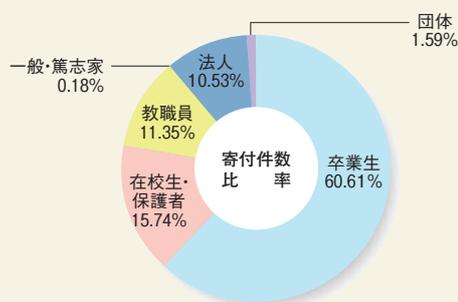
● 募金事業

- ① 平生夙三郎記念教育振興事業
- ② 六甲アイランド総合体育施設整備事業
- ③ 高等学校・中学校新体育館整備事業

● 総事業費見込額 / 20億円

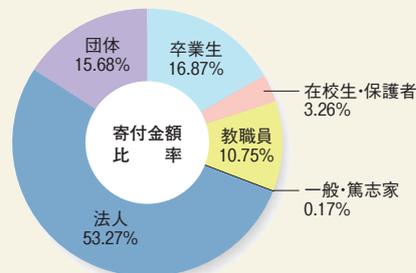
● 募金目標額 / 10億円

● 募金期間 / 平成18年9月1日～平成23年3月31日(4年7ヵ月)



■ 90周年記念事業募金申込状況 (平成21年3月31日現在)

	件数 (累計)	件数[比率] (%)	金額 (累計:円)	金額比率 (%)
卒業生	1,640	60.61	120,372,646	16.87
在校生・保護者	426	15.74	23,276,000	3.26
教職員	307	11.35	76,677,000	10.75
一般・篤志家	5	0.18	1,184,000	0.17
法人	285	10.53	380,070,000	53.27
団体	43	1.59	111,842,095	15.68
合計	2,706	100.00	713,421,741	100.00



■ 人物教育率先平生拾芳奨学金制度

● 甲南90周年栄誉スカラシップ【甲南大学】

建学の精神に則った本学の学生を対象に、人物、学業、スポーツ、文化・芸術、国際交流及び社会貢献の各分野において、旺盛な意欲、活動力を喚起涵養します。

平成20年度実績

種類	給付人数 (年間)	一人当たり 給付年額	給付人数	給付総額
平生記念甲南栄誉奨学生	約30名	120万円	4名	480万円
アスリート栄誉奨学生	約20名	100万円	4名	400万円
グローバル栄誉奨学生	約10名	150万円	5名	750万円
リジョナル栄誉奨学生	約30名	60万円	4名	240万円
甲南一貫教育栄誉奨学生	数名	60万円	2名	120万円
トクレス・コミュニケーション教育栄誉奨学生	若干名	60万円	1名	60万円

● 甲南90周年オナースカラシップ【甲南高等学校・甲南中学校】

人物教育の率先を図ることを目的とし、甲南高等学校・中学校に在学する生徒及びクラブ活動団体を対象に、学修、スポーツ、文化・芸術、国際交流及び社会貢献の各分野において、旺盛な活動力を喚起涵養します。

平成20年度実績

種類	給付数 (年間)	給付額 (-給付当たり)	給付数	給付総額
学修奨励奨学金	18以内	20万円	17	340万円
一貫教育優秀者表彰	5以内	1万円	5	5万円
優秀クラブ活動表彰	4以内	50万円	2	100万円
海外クラブ活動交流奨励金	2以内	50万円	1	50万円
交換留学奨励金	2以内	50万円	2	100万円
留学奨励金	10以内	20万円	-	-
社会貢献活動表彰	1生徒当たり1万円 または1団体等10万円 給付総額35万円以内	-	-	-

04 甲南平生国際フォーラムを開催

本フォーラムは、学園創立90周年を迎える平成21年度へのテイクオフ・プロジェクトとして、創立者平生夙三郎が志した「東洋一の大学（人物教育ヲ率先）ノ創立」、「世界に通用する人材の輩出」といった建学の精神と理念に思いを馳せつつ、21世紀の今の視点で国際社会を見直す目的で設立しました。フォーラムでは、毎回異なる国や地域にスポットを当て、外交、環境、経済、芸術、スポーツ、文化など幅広いテーマを取り上げます。すなわち、グローバルな視野と展望のなかに甲南大学を置き、世界とは何かを「人と人との関係」を中心に考え、各国が抱え、織り成す多様な課題の実相を捉え直し、国際理解と友好親善を図ろうとするものです。平成20年度は、特別企画を含め3回のフォーラムを開催しました。

■第1回シンポジウム

日時・場所	平成20年10月17日 神戸ポートピアホテル
テーマ	「アセアンから見える日本、日本から見えるアセアン その狭間から見えてくるアジアの未来」
内容	国際的なプレゼンスを高めつつあるアセアン諸国の人びとは今、世界をどのように理解し、日本との関係をどう捉えているのか。アセアン諸国の人びととの新たな関係について考えました。
基調講演	赤尾信敏氏（国際機関 日本アセアンセンター事務総長）
講演	モセス・タンドゥン・レラティン氏（在大阪インドネシア共和国総領事館総領事代行） スポット・イサラーン・グーン・ナ・アユッタヤ氏（タイ王国大阪総領事館総領事） レードック・リュウ氏（在大阪ベトナム社会主義共和国総領事館総領事）
パネル・ディスカッション	上記ゲストをパネリストに迎えたディスカッション モデレーター 安積敏政（経営学部教授）



■第2回シンポジウム

日時・場所	平成20年11月28日 甲友会館大ホール
テーマ	「韓国とのより成熟したパートナーシップをめざして 人の交流と人材育成の視点から」
内容	日本が韓国とより成熟した「ワンランク上」のパートナーシップを築くためには、今のような人材が求められているのか。日本と韓国の未来を「人と人との関係」から考えました。
基調講演	呉榮煥氏（駐大阪大韓民国総領事）
特別講演	山田厚史氏（朝日新聞シニアライター）
パネル・ディスカッション	上記ゲスト及び、木村幹氏（神戸大学大学院国際協力研究科教授） モデレーター 高龍秀（経済学部教授）



■特別企画（学校法人 甲南学園・朝日新聞社共催）

日時・場所	平成21年1月18日 新神戸オリエンタル劇場	
テーマ	貴志康一・生誕100年記念シンポジウムとコンサート「時空を超える貴志康一 音楽が拓く未来」	
内容	ベルリン・フィルを指揮するなど国際的に活躍し、28年の人生を駆け抜けた音楽家・貴志康一（1909～1937）。その生誕100年を記念したシンポジウムと、ウィーン在住のオペラ歌手・中嶋彰子氏、フルート奏者・古田悠子氏らによる貴志作品のコンサートを開催しました。	
基調講演	小松一彦氏（指揮者・大阪芸術大学大学院教授）	
パネル・ディスカッション	小松一彦氏 小野高裕氏（大阪大学大学院准教授） コーディネーター 井野瀬久美恵（学長補佐）	中嶋彰子氏（ソプラノ歌手） 日下徳一氏（元甲南高等学校・中学校教諭）
コンサート	中嶋彰子氏（ソプラノ）、松本和将氏（ピアノ）／古田悠子氏（フルート）、増田明子氏（ピアノ）	



■ドイツ・ベルリン日独センターで写真展「貴志康一、ベルリンに帰る」を開催

ベルリンでは、貴志康一の生誕100年を記念して、ドイツ・ベルリン日独センターとの共催で、写真展「貴志康一、ベルリンに帰る」を平成21年3月10日から開催しています。オープニングの日には、ベルリンフィルが市民を対象に開いたランチコンサートで中嶋彰子氏が貴志作曲の「赤いかんざし」等を披露し、好評を博しました。

I 事業の概要

大学・大学院

1 教育

(1) 学位記の授与

● 学士

各学部・学科の特色ある学士課程教育の授業科目を履修し、厳格な成績評価を受けた上で、卒業要件を満たした2,143名の学生に、学士の学位が授与されました。

学部・コース	学士(分野)	学科内訳
文学部	文学 356(4)名 社会学 121(3)名	■日本語日本文学科 85名 ■英語英米文学科 98名 ■社会学科 121(3)名 ■人間科学科 103(1)名 ■歴史文化学科 70(3)名
	理工学部 (理学部を含む)	理工学 93(6)名 工学 149(7)名 理学 170(6)名
経済学部	経済学 382(16)名	■経済学科 382(16)名
法学部	法学 420(19)名	■法学科 416(17)名 ■経営法学科 4(2)名
経営学部	経営学 417(9)名	■経営学科 417(9)名
EBA総合コース	経済学 23名 経営学 12名	■経済学科 23名 ■経営学科 12名

※()は前期卒業者で内数

● 修士・博士・会計修士・法務博士

大学院学則及び学位規程により、論文審査と最終試験に合格した69名に修士の学位が、8名に博士の学位が授与されました。また、会計大学院を修了した18名に会計修士の学位が、法科大学院を修了した70名に法務博士の学位が授与されました。

修士課程

研究科	修士(分野)	専攻内訳
人文科学研究科	文学 18(1)名 社会学 5名	■日本語日本文学専攻 2名 ■英語英米文学専攻 5名 ■応用社会学専攻 5名 ■人間科学専攻 11(1)名
	自然科学研究科	理学 33名 工学 7名
社会科学研究科	経済学 5名 経営学 1名	■経済学専攻 5名 ■経営学専攻 1名

※()は前期修了者で内数

博士(課程博士)

研究科	課程博士(分野)	専攻内訳
人文科学研究科	社会学 2(1)名	■応用社会学専攻 2(1)名
自然科学研究科	理学 4(1)名	■物理学専攻 3(1)名 ■生命・機能科学専攻 1名
社会科学研究科	経営学 2(1)名	■経営学専攻 2(1)名

※()は前期修了者で内数

専門職学位

研究科	学位(専門職)	専攻内訳
ビジネス研究科	会計修士 18名	■会計専攻 18名
法学研究科	法務博士 70(1)名	■法務専攻 70(1)名

※()は前期修了者で内数

(2) 経営学部、会計大学院の在学生が平成20年公認会計士試験に合格

昨年に引き続き、経営学部の4年次生1名が公認会計士試験に挑戦し、短答式試験及び論文試験に合格しました。会計大学院では16名が論文式試験に臨み、4名(修了生2名、在学生2名)が合格しました。また、経営学部では、12月5日に公認会計士・監査審査会講演会「会計学を学ぶことの意義～公認会計士の担う使命」を開催しました。

※公認会計士試験制度…平成18年に制度が一部改正され、定められた科目を修得した会計大学院修了者に対しては、短答式試験4科目のうち、財務会計・管理会計・監査論の3科目が免除され、企業法のみを受験すればよく、また、短答式試験合格者は短答式試験が2年間免除され、最終の論文試験に臨むことができるようになりました。

(3) 法科大学院生が司法試験に合格

平成18年度からはじまった新司法試験に、平成20年度は、法学研究科(法科大学院)修了者71名が受験し、12名が合格しました。

(4) 推薦入学者への入学前教育

平成20年度も早期に大学への入学が決定した年内入試合格者を対象に、入学時までの学力維持と入学後の大学教育へのスムーズな移行を目的として、入学前教育を実施しました。e-learningによるメディアアリティラーシーを全学で、学部学科単位では、TOEIC TEST対策講座・通信教育・事前指導・文章作成能力向上講座などを実施しました。

(5) 自己点検・評価の実施

平成19年度に実施した法科大学院の自己点検・評価について、認証評価を受けるべく財団法人大学基準協会に報告書を提出、第三者評価を受けた結果、同協会の法科大学院基準に適合していないとの判定を受けました。この結果を受けて、認証評価結果とともに改善計画をまとめ公表しました。また、会計大学院でも平成21年度に認証評価を受けるべく自己点検・評価を実施しました。

(6) FD活動の推進

平成13年度後期より実施している全学共通フォーマットでの、学生による「授業評価アンケート」の活用を図るとともに、昨年度に引き続き、GPAを試行的に実施しました。また、「私立大学におけるFD活動—学士課程教育の再編に向けて—」をテーマとしてFD講演会を開催、同志社大学教育開発センター所長山田礼子氏による基調講演、パネルディスカッションを実施しました。このほか、FDに関する情報発信を目的にホームページを開設しました。

※GPA…「グレート・ポイント・アベレージ」の略。学生の成績評価の方法の一種で、一般的には授業科目ごとの成績評価を5段階で評価し、それぞれに、4・3・2・1・0のグレートポイントを付与し、この単位当たりの平均を出したものであり、学習指導等に利用される。

(7) 経済学部「地域再生システム論」を開講

経済学部では、内閣府や神戸市等の協力と同窓会の支援を得て、「地域再生システム論—六甲山の活性化に向けて」を開講、一般にも公開しました。われわれに身近な存在である六甲山の歴史・文化・自然について学び、その環境・観光資源としての価値を再認識し、理解を深め、公開ワークショップでは学生による「六甲山活性化に向けたアクションプラン」の発表を行い、行政より一定の評価を得ました。

(8) 経営学部「実践的経営シミュレーション演習プログラム」の展開

平成19年度に「現代GP」に採択された「実践的経営シミュレーション演習プログラム」は、2年目として、経営学部教員全員が開発に係った事前学習用コンテンツとコミュニティサイトの公開が進み、インターネット上で企業経営の模擬体験を行うe-learningとface to faceの指導を組み合わせた教育プログラムを開始しました。

※現代GP…「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」の略。文部科学省が各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題に対応したテーマ設定を行い、各大学等から応募された取組の中から各大学が工夫を凝らし、他の大学等でも参考となる「特に優れた教育プロジェクト(取組)」を選定し、財政支援を行うことで、高等教育の活性化が促進されることを目的とするものです。

(9) キャリア教育の推進

平成18年度に「現代GP」に採択された「価値創造のできる21世紀

型教養人の育成プログラム』を実施、1年次から4年次までの各年次に設けられるキャリアデザイン科目群のうち、1年次対象の「ベーシック・キャリアデザイン」科目、「インターンシップ・ボランティア科目」に続き2年次対象の「キャリアゼミ」科目を新たに開講しました。

また、次年度以降に順次開講する3年次対象の「プラクティカル・キャリアデザイン」科目と4年次対象の「アドバンスド・キャリアデザイン」科目の試行を実施しました。

(10) 甲南平生GPの実施

このプログラムは「平生の教育精神」を生かし、個性と獨創性を明確に打ち出した優れた教育プロジェクトに対して、全学的な支援体制を整え実施するものです。教育の質向上を図り、学内の教育環境の活性化、文部科学省による「GP」等に進展できるシーズの育成を目的としています。平成20年度は5件の応募があり、次の3件を採択しました。

- ・学生の「個性化」を支える心と体の成長支援(学生部、医務室、学生相談室、スポーツ・健康科学教育研究センター)
- ・プロジェクト活動による地域連携教育の実践(文学部)
- ・キャリア教育の発展型を通して培う学士力(キャリアセンター)

(11) 国際交流の推進

国際交流センターでは、「甲南プログレス・プロジェクト」の拡充に取り組み、新たに米国カリフォルニア大学サンディエゴ校、並びに米国セントラルワシントン大学と協定を締結しました。学内では、受入留学生と本学学生との交流の機会を提供する年3回の「留学フェア」の開催、「Brother & Sisterプログラム」・「ドゥーミーサポーター制度」の提供など新しい企画を実施しました。

また、会計大学院では、平成20年8月、教員の共同研究や学術交流、本大学院生及び社会人のための研修等の実施による教育の活性化を促進するため、中国の厦門国家会計学院と学術交流に関する協定を締結し、経営学部では、平成21年1月、半年間の交換留学を目的に、ドイツのケルンビジネススクールと交換留学に関する協定を締結しました。

※甲南プログレス・プロジェクト…多様化する国際化社会において、国際人としての素養を身につけ、豊かな人格形成を実現するため、ユニークなプログラムを海外の大学と共同で開発し、年間100名の学生を海外の大学に送り出すプロジェクト。

(12) スポーツ強化支援

平成19年度から開始した強化指定団体制度の検証を行うとともに、指導者招聘支援金制度の新設、学修・学生生活に関する指導支援など、「スポーツ教育力の強化」を狙いとする総合的なスポーツ強化支援策を実施しました。

(13) 法学部講演会を開催

法学部は平成20年6月10日、甲友会館において、3月に元学生が逮捕された事件を受け、法学部学生を対象に、講師に後藤啓二弁護士を招き、法学部講演会(演題:「法学を学ぶ意味—社会の責任ある一員として—」)を開催しました。講演会には約900名の学生が参加、法学を学ぶ学生として、法を学ぶ心構えを確認しました。また、6月11日から1週間、法学部の各授業においても、「法学部で学ぶ者の姿勢」について特別講義を行いました。

2 研究

(1) 平成20年度平生太郎基金科学研究奨励助成で4件を助成

平成20年度より、遺贈者の遺志を尊重し、「基金の果実」については、助成の対象を自然科学(医学を含む。)及びそれを中心とした複合分野とし、人文・社会系分野については、遺贈者の精神に喚起された学園が「基金の果実」に付加する資金を充てることとし、いずれも当該分野において、本学が世界水準の研究拠点となる夢を実現しようとする気概のある研究を対象に募集し、平成20年度の研究助成として自然科学分野2件、人文・社会系分野2件の計4件を採択し、助成しました。

※平生太郎基金科学研究奨励助成…学園創立者平生鈞三郎のご子息、太郎氏のご令室である故平生愛子様から遺贈を受けた財産で、科学研究(医学を含む。)を奨励することを目的とした基金。平成6年度より開始された学園の研究奨励助成制度。

【自然科学分野】

単位:千円

申請者	研究課題	研究期間	助成金額
杉本直己 (理工学部教授)	甲南DNAサーベイヤーの構築と革新的核酸機能化技術の開発	平成20年4月1日～平成25年3月31日 期間5年	20,000 (5年で総額100,000)
山崎篤志 (理工学部講師)	超高分解能光電子分光による強相関電子系化合物の精密電子状態の解明	※平成20年4月1日～平成22年3月31日	12,000
		平成20年度助成合計金額	32,000

※但し、助成対象研究期間は平成20年度(平成20年4月1日～平成21年3月31日)とする。

【人文・社会系分野】

単位:千円

申請者	研究課題	研究期間	助成金額
出口晶子 (文学部教授)	瀬戸内海世界の観光舟運—内海と島宇宙が生み出す新しい観光	平成20年4月1日～平成21年3月31日	600
森剛志 (経済学部准教授)	教育・医療面からみた日本の経済格差が家計へ及ぼす影響について	※平成20年4月1日～平成23年3月31日	900
		平成20年度助成合計金額	1,500

※但し、助成対象研究期間は平成20年度(平成20年4月1日～平成21年3月31日)とする。

(2) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の推進展開

文部科学省の平成20年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に人間科学研究所のプログラム「心の危機の見極めと実践的ネットワークの創造」(5年間)が採択されました。

なお、この事業の前身である私立大学学術高度化推進事業の継続分は下表のとおりです。

※私立大学戦略的研究基盤形成支援事業…大学の経営戦略や研究戦略に基づき、各大学が特色を活かした研究を実施するため、国が重点的かつ総合的な支援を行う大型プロジェクト。

事業名	テーマ	期間
学術フロンティア推進事業	「有用な人工生命分子創製のためのテララーメドバイオケミストリー」(先端生命工学研究所)	平成16年度から5年間
オープン・リサーチ・センター整備事業	「知的情報ネットワークによる地域密着型教育の高度情報化に関する研究」(知的情報通信研究所)	平成16年度から5年間
	「ナノ構造システムにおける量子相関の研究」(量子ナノテクノロジー研究所)	平成17年度から5年間
社会連携研究推進事業	「地域経済クラスター創造に向けての社会連携研究」(ビジネス・イノベーション研究所)	平成17年度から5年間

I 事業の概要

(3) 知的財産管理体制の構築

平成19年3月に制定された「甲南大学発明規程」に基づく知的財産の管理と活用を行い、知的財産アドバイザーの助言と指導の下で、平成19年度の事例をふまえて知的財産取り扱いフローの見直しと整備を行いました。平成20年10月には東京JSTホールにおいて、新技術説明会を開催し、本学の保有する4件の技術（特許）に関する技術発表を行いました。また、「理工系研究シーズ集」に続いて、「文系・社会系研究シーズ集」が完成し、フロンティア研究推進機構ホームページにて、情報発信を行いました。

(4) 科学研究費補助金新規採択率が全国で24位

文部科学省・日本学術振興会による平成20年度科学研究費補助金に、本学から17件が新規に採択されました。新規採択率28.8%は、新規応募件数50件以上の大学等研究機関のなかで、全国第24位となりました。

(5) 先端生命工学研究所 (FIBER) の研究活動の推進

「FIBER国際シンポジウム (FIBER International symposium on Nucleic Acid Chemistry)」を開催し、核酸研究の第一人者を講師に招待するとともに、学術フロンティア推進事業の成果を報告しました。また、共同研究を行っている企業との研究成果も新聞に数多く取り上げられました。

3 学生支援活動

(1) 甲南大学学生相談室開設20周年記念講演会・シンポジウムを開催

平成20年7月26日、学生相談室では開設20周年を記念して、「ここを育てる大学教育とこれからの学生支援—追悼 河合隼雄先生 (前文化庁長官・元国際日本文化研究センター所長)—」をテーマに講演会とシンポジウムを開催しました。また、7月19日～26日の間、特別企画「甲南大学学生相談室20年の歩み—河合隼雄先生追悼写真展—」を開催しました。

(2) 奨学金・表彰制度の充実

学生のより高い学習意欲を引き出すために、目的別の各種奨学金、表彰、授業料免除に加え、学園創立90周年記念事業である建学の精神を体した「甲南90周年栄誉スカラーシップ」に20名を採用し奨学金を給付しました。

(3) 学生生活の活性化

● 課外活動等の展開

学生が主体となる活動を促進させ、徳を備え活力に満ちた学生を育成・支援するため、学長表彰、学長顕彰、学生部長特別表彰、父母の会課外活動表彰 (金甲賞)、同窓会課外活動表彰 (会長賞・奨励賞) 等の各種表彰を行いました。

● 甲南21クリエイティブ・プラン

学生の社会参加、地域社会への貢献活動を促すことを目的に、「甲南21クリエイティブ・プラン」として引き続き学生からの企画を募集し、優秀なアイデア2件に資金的援助を行いました。

● 市民救命士の育成

課外活動中ではもとより、学外においても緊急時に応急処置ができる学生を一人でも多く養成するため、体育会に所属する学生を対象とした市民救命士の講習会を開催し、55名の学生が参加しました。今後は、文化会や一般学生を含めた市民救命士を養成していく計画を推進していきます。

● 岡本一斉クリーン作戦の実施

岡本地区の美化を促進するため、岡本商店街振興組合、東灘区まちづくり支援課、本山中央婦人会、美しい街岡本協議会、甲南女子大学、神戸市の関係部局が協力して岡本一斉クリーン作戦が2回実施され、本学からは、毎回、約180名が参加し、通学路や阪急岡本駅・JR摂津本山駅周辺、ガム取り、ゴミ拾い、草抜きを行いました。また、着ぐるみを着て、「タバコのポイ捨て禁止」、「ゴミの分別」の啓発活動も同時に行いました。

(4) 父母対象の教育懇談会の実施

学生の父母に対し、本学の教育理念やキャンパスライフの認識、生活情報を提供するため、本学で教育懇談会を平成20年5月17日に行いました。また、地方在住の父母を対象として、名古屋市及び福岡市で10月12日に、広島市及び松山市でも11月16日に開催しました。

(5) キャリア形成・進路支援体制の強化

キャリアカウンセラー資格を有するキャリアセンター職員による「職業興味検査」、首都圏での就職活動を支援する「企業研究講座in TOKYO」、若手卒業生を招いての「OB・OG懇談会」、多様な学生のニーズに応える「理工系学生のためのキャリア支援講座」、「文学部生向けキャリア支援講座」に加え、新たにマスコミ志望の学生を対象に「メディア人養成セミナー—甲南ロード2008・甲南ファーム2008」を開始しました。また4年次生に向けては未内定者を対象に学内合同企業セミナーの実施、個別相談窓口の開設などのフォローアップを図りました。平成20年度の就職率は97.1%となりました。

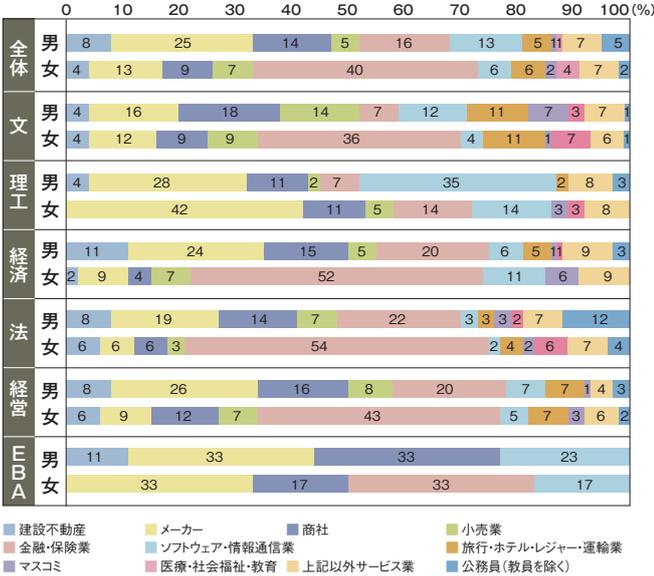


(6) 深刻な経済不況と雇用情勢の悪化に伴う特別措置

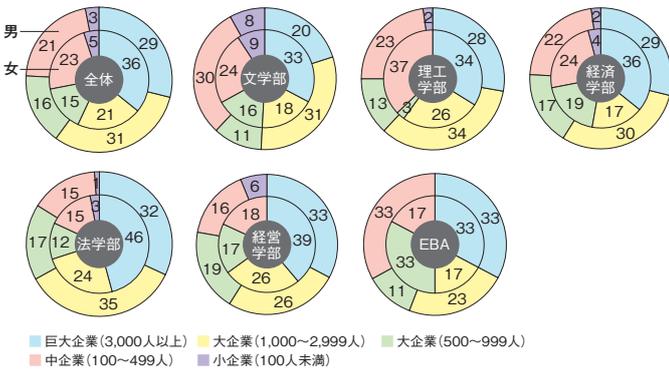
深刻な経済不況と雇用情勢の悪化に伴い、就職内定先企業から内定取消しを受けた4年次生に対し、卒業要件を充たしていても1年間に限り、引き続き在籍することを認める特別措置を行いました。また、家計が急変して修学が困難になった在学学生及び新入生に対し、平成21年度授業料の半額相当額減免の特別措置を実施します。

■就職状況

業種別就職状況 (%)



規模別就職状況 (%)



4 社会連携・貢献活動

(1) 高大等連携の推進

「高大連携聴講生制度」に基づき、兵庫県、神戸市及び協定を締結した高校の生徒を指定の授業に受け入れ、平成20年11月13日に高校教員との教育交流会を開催しました。各学部においては、出張講義、授業体験、遠隔授業などを実施しました。

先端生命工学研究所では、独立行政法人科学技術振興機構(JST)の支援事業である「SPP事業」に2件、「理数系教員指導力向上研修」に1件採択されました。また、高校生のみならず、中学生を対象とした独立行政法人日本学術振興会(JSPS)の支援事業「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」にも採択され、研究所での最先端技術を中学校・高等学校へ広く還元しました。

※SSP事業…「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト」の略。学校等と大学等が連携し、研究者等を講師とする科学技術、理科に関する観察、実験、実習等の体験的・問題解決的な活動を中心とした学習活動を行うことによって、生徒の科学技術や理科に対する興味・関心と知的探究心等を育成することを目的としている事業。

(2) 産官学連携の推進

フロンティア研究推進機構において、引き続き産・官と連携し、受託・共同研究や技術相談等、本学の知的財産を広く社会のために活用する事業を推進するとともに、本学の研究成果をアピールするために京阪神地区及び東京地区の各種展示会等に出席しました。

(3) 明石市教育委員会との連携協力に関する協定

平成20年4月、明石市立学校等との相互の人的・知的資源の交流・活用を図り、相互の教育充実・発展に資することを目的として連携教育に関する包括協定を明石市教育委員会と締結しました。

(4) 教員免許状更新講習プログラム試行に採択

平成20年度文部科学省「教員免許状更新講習プログラム開発委託事業」に、理工学部で行う物理及び地学分野のプログラムが採択されました。

※教員免許状更新講習プログラム開発委託事業…文部科学省が、平成21年度から施行される教員免許状更新制の円滑な実施に向けて、平成20年度に、101大学・法人に教員免許更新講習のプログラム開発とその試行に係る委託業務を実施するものです。

(5) 大学間連携の推進

兵庫県下の大学相互の連携を深め、教育・研究活動の向上と、地域社会の振興と発展に寄与する「大学コンソーシアムひょうご神戸」では、学生交流事業を担当し、参加大学学生による「学生音楽祭」と、観光振興・物産宣伝・イベント企画・社会貢献活動の新提案など兵庫をグローバルにアピールするアイデア・企画を募集、選定する「学生プロジェクトプラン・コンペ2008」を開催しました。

(6) 生涯学習の支援

社会人講座、各種シンポジウム、公開講座等を通じて、生涯学習の機会を社会・地域に提供しました。

主な講演会・シンポジウム等

- 公開講座
 - 春期:「人の知能と機械の知能」
 - 夏期:パソコン教室「自分で撮った画像で、オリジナルTシャツをつくろう!!」
 - 秋期:「ビジネス・イノベーション(企業革新)」
 - 冬期:バドミントン教室「苦手克服!バックハンドを磨きましょう!」
 - フィールドワーク:「京都花街文化と九鬼周造」
- 現代講座
 - 第145回「チャレンジ!!」角田信朗氏(格闘家)
 - 第146回「わが野球人生」金村義明氏(タレント)
 - 第147回「女医が語るおもしろ健康講話」西川史子氏(医師・タレント)
- 文化講演会
 - 「学びが変わる! 甲南大学は、新しい教育のステージへ」
 - 「DNAワールド～ナノバイオが変える未来生活～」
 - 「東洋一の大学を目指して～創立者 平生鈞三郎の夢～」
- 言語関連社会人講座
 - 「言語講座」英語・独語・仏語・中国語・韓国語(レベル別)
 - 「マルチメディアを活用した外国語学習」

I 事業の概要

●ネットワークキャンパス東京

連続公開講座

- 「これまでのアジア戦略、これからのアジア戦略
—国際ビジネス最前線からの提案—」
- 「ビジネスに活かす会計情報」
- 「甲南学園創立者 平生鈺三郎を知る」
- フランス甲南学園トゥレーヌ連携講座
- 「地中海とサハラ砂漠が出会う国」
- 「ショコラティエ 土屋シェフが語る魅惑のショコラ」
- 公開講座「娘からみた作家城山三郎の素顔」
- 法科大学院連続講座
- 「国際化時代の企業と法のダイナミクス
—グローバル時代における企業のあり方—」

●コミュニティデザインセンター

文学部地域連携講座

- ・「メディア文化論Ⅰ」・「NPO/NGO論」・「阪神文化論」
- ギャラリー・バンセ展覧会
- ・博物館実習展「くつをはいたら」
- ・館 勝生氏「館 勝生展」
- ・文学部4年玉田孝介写真展「ウガンダ共和国の笑顔と現実」
- ・ニジマ アツシ展「"Third Perspective"」
- ・甲南大学美術部「冬のサロンドコーナン展」
- ・出口正登氏、炭谷栄樹氏、出口晶子(文学部教授)
- ・瀬戸内海世界を船旅する／平生太郎基金研究写真展」

●知的情報通信研究所

オープン・リサーチ・センター整備事業シンポジウム、講演会、公開講座

●スポーツ・健康科学教育研究センター

公開講演会「健康とスポーツから得られる喜び」
道上洋三氏(アナウンサー)

●人間科学研究所

第43回公開研究会「プロジェクト2.育てる関係の危機と子育て意識の多相性についての研究」
第44回公開研究会「プロジェクト1.加害-被害関係の多角的な研究」

●人間科学研究所・学生相談室(共催)

第6回園芸療法研修会「自然と接して学んだこと」

●先端生命工学研究所(FIBER)

FIBER国際シンポジウム
「FIBER International Symposium on Nucleic Acid Chemistry」
国際講演会
「FIBER International Lectures」(第10回・第11回 計2回開催)
講演会「FIBER Lectures」(第25回・第26回 計2回開催)
シンポジウム「FIBER Forum 2008」
社会人向け連続講座「NANO BIO COLLEGE」

●総合研究所

第46回公開講演会
「平生鈺三郎、今に繋がる日伯交流基盤構築への埋もれた偉業」
第47回公開講演会
「DNAからDNBへ—バイオとナノの織りなす新しいサイエンスワールド—」

●ビジネス・イノベーション研究所

第5回シンポジウム「気候変動と企業経営
—カーボン・マネジメントと地球環境問題への貢献—」
第8回研究会「同族企業経営の進化を求めて」
第9回研究会「離陸したインド経済—台頭するアジアの巨象の行方を探る—」
第10回研究会「ベンチャー企業の革新性とその継続可能性」

5 環境整備

(1) 安全管理の強化

●非常通報設備設置工事

キャンパスのセキュリティを強化するため非常通報設備の設置を継続して行っています。講義室、演習室、図書館及び事務室については、ほぼ設置を完了しました。

●7号館空調設備等更新工事

老朽化した空調設備、排気設備の更新を年次計画で行っています。

●非常発電設備設置工事(2期)

災害等の発生からライフライン復旧までの間、災害対策本部やネットワークサーバーに電源を供給するための非常発電設備設置工事の2期工事を行い、同設備の設置が完了しました。

●学生会館・文化部室トイレ改修工事

老朽化した学生会館及び文化部室のトイレを改修しました。

●AED(自動体外式除細動器)及びキャビネットの設置

心臓停止に有効な救命機器である「AED」を新たに2台購入し、学内10箇所に設置し、携帯用1台を増加しました。また、誰でもすぐにAEDを使用できるよう、AEDを入れるためのキャビネットを4台設置しました。

(2) 快適・安心なキャンパス構築の推進

●講堂兼体育館の空調設備設置工事

1年を通じて様々な催しを快適に行えるよう空調設備を設置しました。

●自動ドア設置工事

キャンパスのバリアフリー化の一環として、1・3・5・10号館のエントランス扉を自動ドアに改修しました。

●学生会館1階南門のバリアフリー化

車椅子の学生が学生会館を利用しやすくするため、学生会館1階南門をバリアフリー化しました。

●六甲アイランド総合体育施設の修繕

六甲アイランド総合体育施設北グラウンドを安全に使用できるようにするため、老朽化した野球場の防球ネット、テント、器具の修繕を行いました。

(3) 情報インフラ整備の推進

●高速学内ネットワークの構築について

平成20年4月より、学内LANを全学的に更新しました。2号館と5・7・9・10・11号館とは10ギガ接続となり、その他の号館も全てギガ接続と高速化を図りました。また、無線LANのアクセスポイントを図書館や学生ラウンジなどに展開し、パブリックスペースのアクセス環境を整備しました。それに伴い、持込PCを学内LANに接続する際にウイルス対策がされているか等の検疫を実施する、セキュリティを確保した検疫システムを導入しました。

6 学生募集・入学試験に係る活動

(1) 入学試験の実施

平成21年2月から3月にかけて実施した入学試験の志願者総数は24,888名(前年比3,959名(13.7%)減)で、4年ぶりに減少しました。内訳は、一般入試志願者数が2,003名減の15,412名(前年比88.5%)、センター試験利用入学試験志願者数が1,956名減の9,476名(前年比82.9%)です。また、その他の入学試験では、AO入学

試験に全体で217名が志願、50名が合格、48名が入学しました。

平成21年度新設のマネジメント創造学部は、一般入学試験877名、センター試験利用入学試験710名、公募制推薦入学試験190名、AO入学試験101名など、合計で1,934名の志願者を集め、入学者数は207名でした(マネジメントコース178名、特別留学コース29名)。また、フロンティアサイエンス学部は、一般入学試験276名、センター試験利用入学試験458名、AO入学試験11名など、合計で754名の志願者があり、41名が入学しました。

【入学試験状況】

学部・学科	一般入試				センター試験利用入試				その他の入試				
	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
文学部	日本語日文学科	658	645	153	42	292	288	70	7	24	24	24	24
	英語英米文学科	772	763	201	66	457	448	94	11	37	37	32	30
	社会学科	819	804	197	63	470	458	83	10	37	37	34	34
	人間科学科	1,056	1,034	213	57	444	434	92	13	37	36	34	33
	歴史文化学科	626	618	149	41	492	481	69	6	27	25	23	23
	小計	3,931	3,864	913	269	2,155	2,109	408	47	162	159	147	144
理工学部	物理学科	374	359	157	34	228	220	88	8	26	26	20	20
	生物学科	318	309	151	49	285	267	83	4	7	7	7	6
	機能分子化学科	689	678	206	51	396	383	108	7	38	38	35	34
	小計	1,381	1,346	514	134	909	870	279	19	71	71	62	60
経済学部	2,859	2,807	658	194	1,984	1,954	588	78	196	194	151	150	
法学部	2,159	2,127	646	249	1,347	1,328	318	33	139	139	136	134	
経営学部	3,339	3,273	747	253	1,569	1,541	285	54	165	161	136	108	
知能情報学部	590	570	256	97	344	334	84	5	57	56	47	46	
マネジメント創造学部	877	859	193	90	710	700	99	17	347	344	110	100	
フロンティアサイエンス学部	276	267	77	22	458	443	89	10	20	19	11	9	
合計	15,412	15,113	4,004	1,308	9,476	9,279	2,150	263	1,157	1,143	800	751	

※その他の入試とは、マネジメント創造学部公募制推薦入学試験、AO入学試験、スポーツ能力に優れた者の推薦入学試験、経営学部高等学校商業科推薦入学試験、理工学部高等学校工業科推薦入学試験、指定校推薦入学、系列校推薦入学、協定校推薦入学、帰国子女入学試験、社会人入学試験。

大学院[修士課程]	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
人文科学	日本語日文学専攻	3	3	2	2
	英語英米文学専攻	1	1	1	1
	応用社会学専攻	6	5	2	1
	人間科学専攻	81	80	17	11
	小計	91	89	22	15
自然科学	物理学専攻	23	22	21	17
	化学専攻	8	8	8	8
	生物学専攻	12	12	10	10
	情報システム工学専攻	14	13	13	13
	小計	57	55	52	48
社会科学	経済学専攻	8	7	5	5
	経営学専攻	3	3	2	2
	小計	11	10	7	7
フロンティアサイエンス	生命化学専攻	13	13	13	13
合計	172	167	94	83	

修士課程:一般入学試験、社会人入学試験、AO入学試験、外国人留学生入学試験、学内推薦入学試験、学内選考入学試験

大学院[博士後期課程]	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
人文科学	日本語日文学専攻	0	0	0	0
	英語英米文学専攻	1	1	0	0
	応用社会学専攻	0	0	0	0
	人間科学専攻	4	4	3	3
	小計	5	5	3	3
自然科学	物理学専攻	3	3	3	3
	生命・機能科学専攻	0	0	0	0
	情報システム工学専攻	0	0	0	0
	小計	3	3	3	3
社会科学	経営学専攻	2	2	2	2
フロンティアサイエンス	生命化学専攻	1	1	1	1
合計	11	11	9	9	

博士後期課程:一般入学試験、社会人入学試験、外国人留学生入学試験

大学院[専門職課程]	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
法科大学院(法学研究科法務専攻)	362	331	190	49
会計大学院(ビジネス研究科会計専攻)	40	35	33	29
合計	402	366	223	78

会計大学院:一般入学試験、AO入学試験、指定校推薦入学試験、学内推薦入学試験

I 事業の概要

高等学校・中学校

1 教育

(1) 中高6年一貫教育システム

(2-2-2、基礎・応用・発展)の展開

甲南大学、そして世界の大学を目指す中高6年一貫教育システムの充実を図りました。

- ①基礎期間では、暗誦、テーマにそった作文ノートの作成、スピーチなどを積極的に展開し、日本語運用能力を高めるように努めました。また、発展期間では「読んで書く」という姿勢を涵養するために感想文コンクールを実施しました。加えて「言葉の力=日本語の運用能力」を伸ばすために語彙、言葉の意味、漢字、表記、文法そして敬語について包括的に指導し、自らの力を検証させる目的で「日本語検定」を実施しました。
- ②基礎期間で実施している計算力テストを応用期間、発展期間までつなげ、数学離れを防ぐとともに計算力の涵養に努めました。
- ③英語教育では、6年間系統だったクラス半数分割のオーラルコミュニケーションで、Show&Tell, Interview Test, Prepared Speech, Debateなどを展開するとともに、グループによる英字新聞の作成、英語創作ノートの充実を図り、言語運用能力の向上に努めました。
- ④早い段階から進路目標を明確にするため、キャリア・ビジョンの養成の一環として、中学校3年においてキャリアリサーチと称する授業を設けるとともに、様々な職種で活躍する本校OBを招聘し、OBワークショップを実施しました。
- ⑤基礎・基本学力の向上のための学習・生活習慣を身に付けることを目標に、ベーシック・コースにおいて、オリエンテーション合宿の実施やスタディー・ダイアリーを活用するとともに、学年ごとに配信可能なメールシステムを導入し、各家庭との連携を強化しました。
- ⑥全学あげて読書を奨励し、HRの時間を利用して一斉読書を行いました。この時、読んだ作品についてブックレポートを作成し教室に掲示し、互いの感想・考え方を知り合うように工夫しました。

(2) 甲南一貫教育の実現

平生精神をバックボーンとする甲南一貫教育を実現するために次の事業を実施しました。

- ①OBワークショップ、講演会や学習センターでのOBの指導、クラブ活動・ボランティア活動等により、世代や学年を超えた豊かな人脈を通じた人間形成に取り組みました。
- ②甲南大学理工学部・法学部に加え、会計大学院などの出張講座やe-learningによる講座も実施し、高大連携教育を推進しました。
- ③甲南小学校との連携を強化、また甲南女子中学校・高等学校とも連携して、三学園学習成果発表会や、異年齢・異性との共生を考える農作業体験などによる三学園環境教育を実施しました。
- ④多様な能力を有する生徒を、入試制度の改革により積極的に受け入れました。
- ⑤入学前に平生三郎伝記の読書感想文作成を課題とし、また、授業では平生講座の実施や学校行事での平生精神の喚起を行うなど、学園創立者平生三郎の魅力や精神について認識を深めました。

(3) 伝統に根ざすイノベーションを実現する体制作り

平成20年11月14日・15日に、第13回全国私立大学附属・併設中学校・高等学校教育研究集会の開催校として、「教育の不易と流行～多様化する社会における一貫教育の役割～」をテーマに、全国から76校、約300名が参加し講演会や公開授業等を行いました。

また、教員組織活性化のために、各種研修の受講、授業公開、研修会開催などの研修制度を充実しました。



全国私立大学附属・併設中学校・高等学校教育研究集会
パネルディスカッション

(4) ブラジル国花イッペーの植樹と記念講演の実施

平成20年4月27日に、創立者平生三郎のブラジル移民隆盛化と日伯間貿易発展への貢献をたたえるとともに、両国友好の証として、ブラジル連邦共和国・総領事、サンパウロ工業連盟経済使節団等の来賓を迎えブラジル国花イッペーの植樹を平生胸像周辺にて行いました。OBの栗田政彦氏(栗田工業株式会社監査役)による「今必要な世界観をもつ経営者 平生三郎一日伯交流の礎となった埋もれた偉業」と題した記念講演を行いました。

2 学習活動・学校生活支援活動

(1) 奨励金制度の実施

各学年約10名の学力優秀者に対して奨励金を支給し、学習意欲の向上を図りました。

(2) 学習センターの活用

学習習慣の確立と自主的学習の促進を図るため、専任教員と甲南大学の協力によるチューターの指導のもと、教科指導や学習方法の相談を放課後に行いました。延べ292時間、1,000名を超える受講生がありました。また、新たに基礎トレーニング(数学、英語)、ブラッシュアップ講座(英語)を設け個々の生徒のニーズに対応する学びを課外に設定しました。

(3) 国際交流の推進

海外協定校(4ヵ国5校)と長期交換留学や短期語学研修を実施しました。

ル・ジャルダン校(ハワイ)には、プラスアンサンプル部、ダリッジ校(イギリス)にはサッカー部が遠征、夏にはグレゴリー・テラス校へ、21名が約2週間短期研修で渡豪しホームステイ、秋にはグレゴリー・テラス校から20名が約2週間短期研修で来日、本校生徒宅でホームステイして授業を受け、活発な交流が行われました。



プラスアンサンプル部 ハワイでのコンサート

法人

3 環境整備

教室ロールカーテン取替、特別教室AV装置設置、講堂舞台設備、教員室改修、グラウンド排水設備、テニスコートサーフェイス、プール設備改修、課外活動用大型製氷機・冷水機設置等、快適・安心な環境整備と課外活動施設の整備を行いました。

4 進路状況

一人ひとりの適性や個性に応じ、現在は普通コース文I・II、理数コースの3コース制により、将来に向けた自己の確立を目指しています。平成20年度卒業生の進路は、約2/3の生徒が推薦制度により甲南大学、約1/3が大阪大学、神戸大学をはじめとした国公立大学や関西・首都圏の医学部・歯学部・薬学部等を含む私立大学に進学しました。

5 生徒募集・入学試験に係る活動

高等学校入学試験は、新教育システムの展開を踏まえ、生徒一人ひとりの学力、興味・意欲、学習態度の向上を図り、個性豊かで創造力のある人物の育成を目指し、募集人員を普通コースのみ20名に縮減した推薦入試制度に改革しました。

中学校入学試験は、I・II期入試の合格発表時に得点開示を行うこととしたため、志願者数は前年度より減少しましたが、中高一貫教育での新たなカリキュラム展開や、1クラス35名の少人数クラス編成などの学校改革と入試制度改革により、競争率はI期入試a方式2.4倍、II期入試3.2倍、III期入試では4.3倍となりました。

高等学校

募集形態		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
普通コース	推薦入試	26	26	23	23	1.1
	帰国 (上記に含む)	2	2	2	2	

中学校

募集形態		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
I期入試	a方式	225	213	90	88	2.4
	b方式	21	21	18	18	1.2
小計		246	234	108	106	-
II期入試		435	292	92	33	3.2
帰国(上記に含む)		1	1	0	0	
III期入試		110	99	23	23	4.3
甲南小学校		25	25	25	25	-
合計		816	650	248	187	-

備考:II期入試欠席者143名のうち、I期入試合格者100名

1 管理運営・財政

(1) 公的研究費不正防止体制の強化

文部科学省が定める「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に基づき、公的研究費を適切に運営・管理すること等を目的とした規程を整備し、公的研究費の不正防止体制を強化しました。

(2) 大学専任教員の新給与体系の構築

国家公務員に準拠してきた大学専任教員の給与体系を見直し、育成型配分システムへの転換を目指すことを目的として、給与規程の改正を行い、独自の給与体系を構築しました。

2 広報活動・卒業生との連携事業等

● 戦略的広報活動の展開

「甲南」ブランドを社会に広くアピールするため、①産経新聞社主催「堺シティマラソン」に協賛、②「佐渡裕とスーパーキッズ・オーケストラ」のスポンサー、③セレッソ大阪のオフィシャルスポンサーになるなど、従来のメディアを超えた様々な取組を展開しました。これらは「直近の受験生のみにとどまらない次世代」かつ「本学園にとって身近でありながら、“甲南”の知名度が未だ高くない地域」を重点対象とし、「人々を元気づける」ことを強く意識しながら展開しました。

● 文化勲章受章記念講演会の共催

卒業生の中西香爾先生(旧制甲南高等学校 昭和19年卒)、岡田節人先生(旧制甲南高等学校 昭和22年卒)が、平成19年11月3日に文化勲章を受章されたことを記念して、平成20年5月24日、両氏を招いた講演会(中西香爾先生 テーマ「天然物化学の面白さ」、岡田節人先生 テーマ「脱科学よもやま話」)を甲南学園同窓会と共催し、約500名の参加者がありました。

● オール甲南の集いを開催

甲南ファミリーが交流を深める「オール甲南の集い」を平成20年5月25日に開催し、理工学部田中修教授の「花と緑のふしぎ」と題した講演、年少者から大人までが楽しめる「花のかんむり・紙ひこうき教室」、卒業生でSF作家の機本伸司氏原作の映画「神様のパズル」試写会といった新しい企画を催すとともに、卒業生と現役生によるジョイントコンサート「オール甲南夢舞台」、卒業生が経営する企業や商店の物産を販売する模擬店、物産展などを催し、例年を上回る約2,500名の参加がありました。

● 長谷川三郎作品の出版

甲南高等学校(旧制)を卒業した抽象画家 長谷川三郎の作品展「日本抽象のパイオニア 長谷川三郎展」が平成21年1月4日～2月8日までの間、明石市立文化博物館で開催されました。甲南学園は長谷川三郎記念ギャラリー所蔵の平面タブロー・素描・立体作品、その他新発見資料を中心とする国内に残る代表作を出展しました。

II 財務の概要

■平成20年度決算の概要

平成20年度は「21世紀に輝く学園」づくりを目的に策定された中期経営計画の3年目にあたり、次に掲げる同計画の主要事業を実施してまいりました。

- ①知能情報学部の新設及びび理工学部の再編
- ②「マネジメント創造学部(CUBE)」(西宮キャンパス)の新設準備
- ③「フロンティアサイエンス学部・同研究科(FIRST)」(ポートアイランドキャンパス)の新設準備
- ④「先端生命工学研究所(FIBER)」のポートアイランドキャンパスへの移転準備
- ⑤学園創立90周年記念募金事業

以下に、平成20年度決算の概要をご報告いたします。

平成20年度決算は、予算編成方針に掲げた帰属収入に占める消費支出額全体の適正レベル(噴水線)の目標値(95%)を上回る結果となりました。この主な要因は、①学園創立90周年記念募金事業のうち六甲アイランド総合体育施設整備事業及び高等学校・中学校新体育館建設事業の本格的な実施が平成21年度以降にずれこみ、当初予定していた日本私立学校振興・共済事業団への受配者指定寄付金の交付申請ができなかったこと、②学校法人会計基準に沿った減損処理とともに、資産健全化のため、貸付金の引当処理等を行ったことによるものです。

また、中期経営計画事業の実施等に伴い、総額50億29百万円

の基本金組入れを実施しました。主要な内容は次のとおりです。

- ①平成21年度開設予定のマネジメント創造学部、フロンティアサイエンス学部・同大学院棟の建設資金及び先端生命工学研究所の移設資金
- ②学園創立90周年記念事業である六甲アイランド総合体育施設整備及び高等学校・中学校新体育館建設資金

(参考) プロジェクト別基本金組入れ内訳

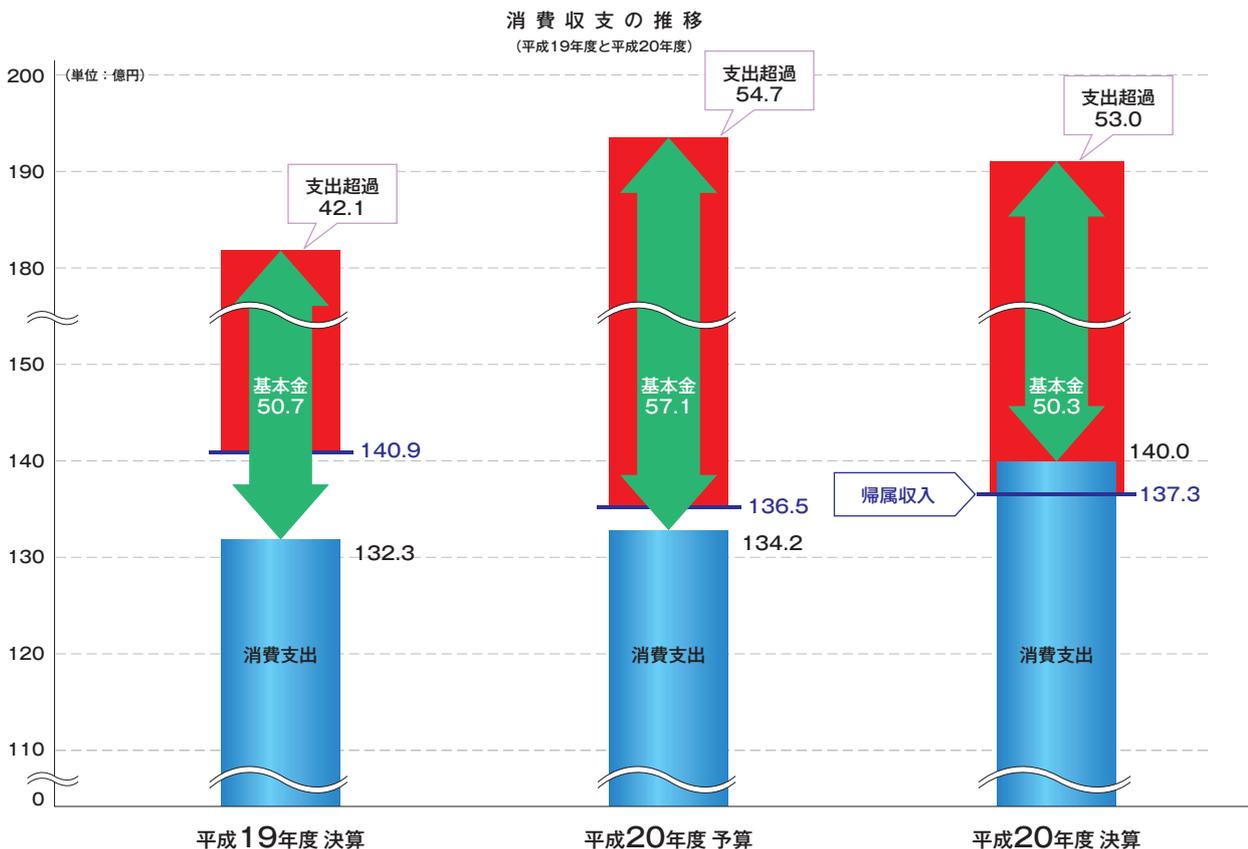
(単位:千円)

	西宮キャンパス	ポートアイランドキャンパス	その他	合計
第1号基本金	1,445,645	2,895,124	435,836	4,776,605
第2号基本金	1,000,000	2,500,000	230,000	3,730,000
	△1,000,000	△2,500,000	△33,943	△3,533,943
第3号基本金	-	-	56,430	56,430
合計	1,445,645	2,895,124	688,323	5,029,092

■資金収支全体概要

資金収入は学生生徒等納付金収入、手数料収入他、286億96百万円。資金支出は大学将来計画引当特定資産へ7億円、大学教育・研究環境整備充実引当特定資産へ5億円積み増した結果、人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出他、283億76百万円となりました。その結果、資金収入超過額は3億20百万円となりました。

■平成19年度決算・平成20年度予算及び決算の比較



■資金収支計算書(学園総括) 平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	10,575,728	10,643,163	△ 67,435	人件費支出	7,654,440	7,646,169	8,271
手数料収入	750,700	712,544	38,156	教育研究経費支出	3,405,736	3,399,445	6,291
寄付金収入	195,900	221,027	△ 25,127	管理経費支出	824,934	774,865	50,069
補助金収入	1,430,405	1,443,065	△ 12,660	借入金等利息支出	25,594	25,594	0
資産運用収入	307,326	299,602	7,724	借入金等返済支出	125,000	125,000	0
事業収入	91,452	95,247	△ 3,795	施設関係支出	4,425,035	4,174,903	250,132
雑収入	298,450	302,040	△ 3,590	設備関係支出	921,886	885,115	36,771
その他の収入	14,416,469	14,799,053	△ 382,584	資産運用支出	9,202,692	11,022,146	△ 1,819,454
				その他の支出	324,860	323,062	1,798
					(255,690)		
				予備費	11,110		11,110
計	28,066,430	28,515,741	△ 449,311	計	26,921,287	28,376,299	△ 1,455,012
資金調整	178,260	180,286	△ 2,026	資金調整	-	-	-
収入の部合計	28,244,690	28,696,027	△ 451,337	支出の部合計	26,921,287	28,376,299	△ 1,455,012
収入超過額	1,323,403	319,728					

(注) 1.資金調整勘定、仮科目(前払金・仮払金・立替金)、預り金、前受金等は含んでいない。
2.「資金調整」は貸付金の収支差額を表す。

注記 予備費からの振替
 教育研究経費支出 201,460
 管理経費支出 7,386
 施設関係支出 6,583
 設備関係支出 40,261

■消費収支計算書(学園総括) 平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	10,575,728	10,643,163	△ 67,435	人件費	7,607,040	7,602,450	4,590
手数料	750,700	712,544	38,156	教育研究経費	4,880,455	4,880,206	249
寄付金	195,900	237,219	△ 41,319	管理経費	847,235	914,088	△ 66,853
補助金	1,430,405	1,443,065	△ 12,660	借入金等利息	25,594	25,594	0
資産運用収入	307,326	301,178	6,148	資産処分差額	0	318,993	△ 318,993
事業収入	91,452	95,247	△ 3,795	徴収不能引当金繰入額	0	260,172	△ 260,172
雑収入	298,450	302,040	△ 3,590	徴収不能額	0	317	△ 317
帰属収入合計	13,649,961	13,734,456	△ 84,495		(208,846)		
基本金組入額	△ 5,705,076	△ 5,029,092	△ 675,984	予備費	57,954		57,954
消費収入の部合計	7,944,885	8,705,364	△ 760,479	消費支出の部合計	13,418,278	14,001,820	△ 583,542
				消費収支超過額	△ 5,473,393	△ 5,296,456	
				前年度繰越消費収入超過額	790,397	790,397	
				翌年度繰越消費収入超過額	△ 4,682,996	△ 4,506,059	

注記 予備費からの振替 教育研究経費支出 201,460 管理経費支出 7,386
計 208,846

II 財務の概要

消費収支決算(部門別内訳)・構成比率

■全体概要

学園全体の帰属収入は137億34百万円、基本金組入額は50億29百万円。帰属収入から基本金組入額を除いた消費収入は87億5百万円。一方、消費支出は140億2百万円となり、その結果、消費収支差額は52億97百万円の支出超過となりました。これは、平成19年度に引き続き新学部開設資金として多額の基本金組入れを実施した結果です。

予算対比で見ますと、帰属収入は学生生徒等納付金、寄付金、補助金、事業収入、雑収入が増加したことに伴い、84百万円の増収(予算136億50百万円に対して決算は137億34百万円)となり、基本金組入額は6億76百万円の減少(予算57億5百万円に対して決算は50億29百万円)となりました。一方、消費支出は管理経費の増加、資産処分差額、徴収不能引当金繰入額及び徴収不能額の計上に伴い、5億84百万円増加(予算134億18百万円に対して140億2百万円)となり、その結果、消費支出超過額は予算より1億76百万円減少し、52億97百万円となりました。

他方、前年度決算と比較しますと、帰属収入は学生生徒等納付金、手数料、寄付金、資産運用収入が減少したことに伴い、3億52百万円の減収(前年度の帰属収入は140億86百万円)。基本金組入額は引き続き新キャンパス建設資金を組入れましたが、前年度より38百万円減少の50億29百万円(前年度は50億67百万円)となりました。一方、消費支出は人件費、教育研究経費及び資産処分差額等の増加に伴い、7億76百万円の支出増(前年度の消費支出は132億26百万円)となりました。

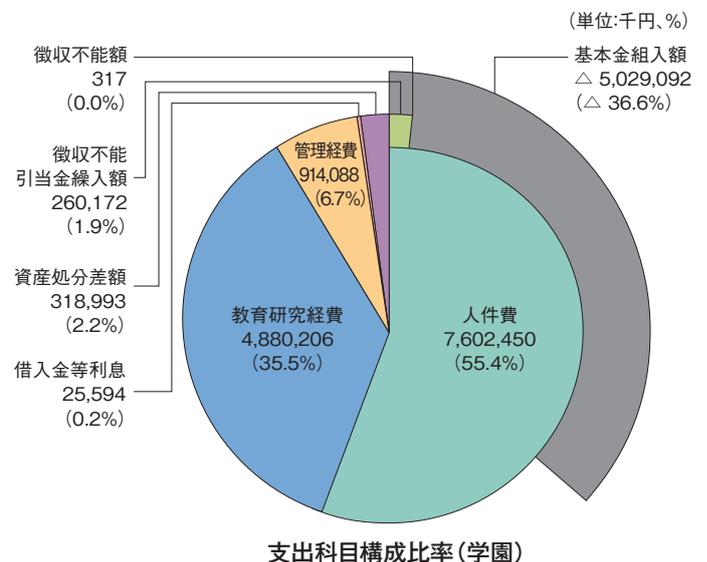
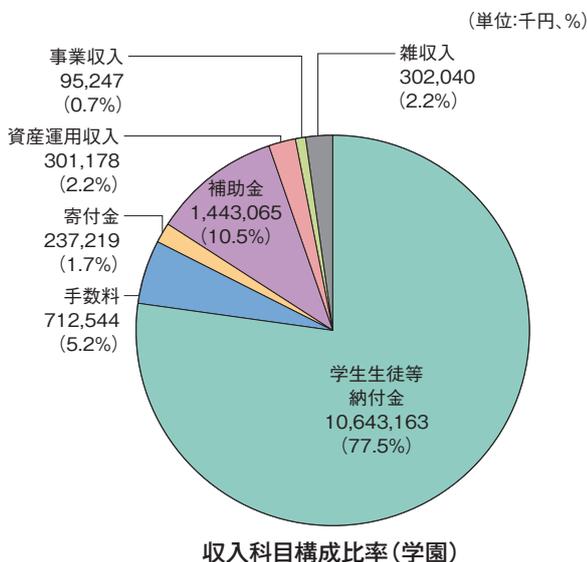
■大学・法人・中高の部(学園全体)

(単位:千円、%)

	科 目	金 額	構 成 比 率
消費収入	学生生徒等納付金	10,643,163	77.5%
	手 数 料	712,544	5.2%
	寄 付 金	237,219	1.7%
	補 助 金	1,443,065	10.5%
	資 産 運 用 収 入	301,178	2.2%
	事 業 収 入	95,247	0.7%
	雑 収 入	302,040	2.2%
	帰 属 収 入 合 計	13,734,456	100.0%
	基 本 金 組 入 額	△ 5,029,092	△ 36.6%
	消費収入の部合計	8,705,364	63.4%
消費支出	人 件 費	7,602,450	55.4%
	教 育 研 究 経 費	4,880,206	35.5%
	管 理 経 費	914,088	6.7%
	借 入 金 等 利 息	25,594	0.2%
	資 産 処 分 差 額	318,993	2.2%
	徴収不能引当金繰入額	260,172	1.9%
	徴 収 不 能 額	317	0.0%
	消費支出の部合計	14,001,820	101.9%
	消費収支差額	△ 5,296,456	

※上表及び円グラフの構成比率は、帰属収入を100とした場合の当該科目の比率となっております。

- (注) ①学生生徒等納付金…………… 授業料・入学金・施設設備資金・施設維持費・教育充実費・実験実習料等
 ②手数料…………… 入学検定料・証明書手数料等
 ③寄付金…………… 学園創立90周年記念事業募金、教育振興募金、企業様からの研究助成等
 ④補助金…………… 経常費補助金(現代GP、戦略的研究基盤形成支援事業を含む)・研究装置、研究設備、施設整備費等補助金等
 ⑤資産運用収入…………… 受取利息配当金・施設設備利用料収入等
 ⑥事業収入…………… 受託事業・収益事業にかかる収入等
 ⑦基本金組入額…………… 校地・校舎・機器備品・図書等教育研究の充実・拡充のために取得した固定資産のうち、帰属収入をもって充当した額及び教育研究基金等への組入額



消費収支決算(部門別内訳)・構成比率

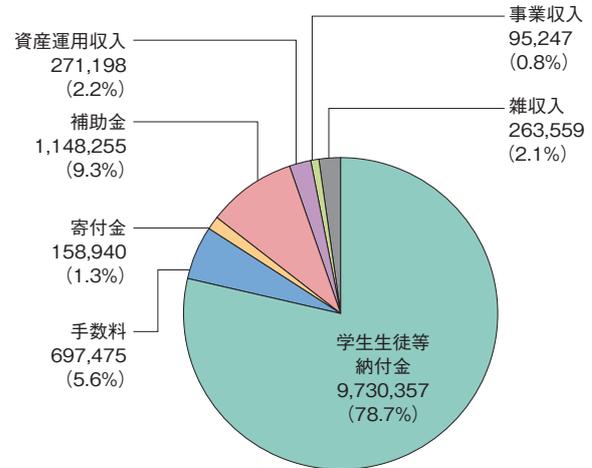
(単位:千円、%)

■大学・法人

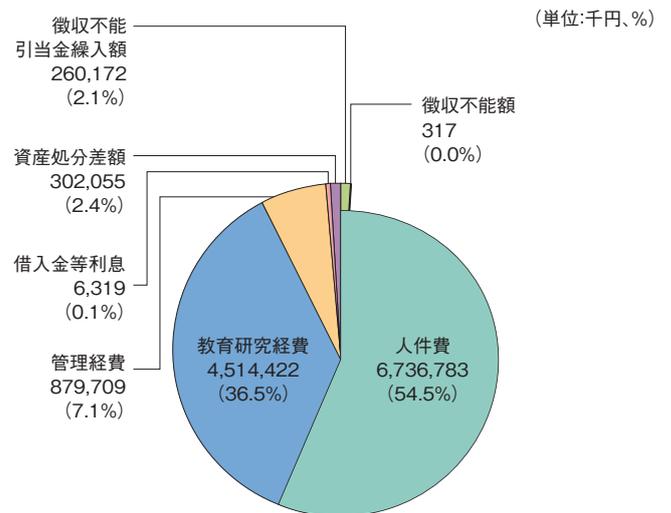
(単位:千円、%)

	科目	金額	構成比率
消費収入	学生生徒等納付金	9,730,357	78.7%
	手数料	697,475	5.6%
	寄付金	158,940	1.3%
	補助金	1,148,255	9.3%
	資産運用収入	271,198	2.2%
	事業収入	95,247	0.8%
	雑収入	263,559	2.1%
	帰属収入合計	12,365,031	100.0%
	基本金組入額	△ 4,864,842	△39.3%
	消費収入の部合計	7,500,189	60.7%
消費支出	人件費	6,736,783	54.5%
	教育研究経費	4,514,422	36.5%
	管理経費	879,709	7.1%
	借入金等利息	6,319	0.1%
	資産処分差額	302,055	2.4%
	徴収不能引当金繰入額	260,172	2.1%
	徴収不能額	317	0.0%
	消費支出の部合計	12,699,777	102.7%
消費収支差額		△ 5,199,588	

*上表及び円グラフの構成比率は、帰属収入を100とした場合の当該科目の比率となっております。



収入科目構成比率(大学・法人)



支出科目構成比率(大学・法人)

《用語の説明》

資金収支

1年間の教育研究活動に伴う資金の収入と資金の支出を明らかにし、支払資金の顛末を表わすものです。

消費収支

企業会計の損益計算の仕組みを引用し、消費収入(収益)と消費支出(費用)の内容と均衡の状態を明らかにしようとするものです。

帰属収入

資金収支計算の収入の部「学生生徒等納付金収入」、「手数料収入」、「寄付金収入」、「補助金収入」、「資産運用収入」、「事業収入」、「雑収入」に現物寄付を加えたものです。

基本金組入額

基本金は学校法人が教育・研究を継続的に維持向上させるために必要な校地・校舎、機械器具、図書等を取得した金額(第1号基本金)、校地、校舎等を取得するために年次的、段階的に積み立てる資金(第2号基本金)、さらには教育・研究を維持充実するための積立(第3号基本金)及び恒常的に保持すべき資金として文部科学大臣の定める額の確保のために帰属収入からあてられる金額(第4号基本金)です。

消費収入

帰属収入から基本金組入額を差し引いた残りの収入で消費支出にあてられるものです。

消費支出

資金収支計算書の支出の部の「人件費支出(退職金支出を除き、退職給与引当金繰入額、他を加える)」、「教育研究経費支出・管理経費支出(減価償却額を加える)」、「借入金等利息支出」に消費支出のみの科目である「資産処分差額」、「徴収不能引当金繰入額」、「徴収不能額」を加えたものです。

消費収支差額

消費収入と消費支出との差です。

II 財務の概要

消費収支決算(部門別内訳)・構成比率

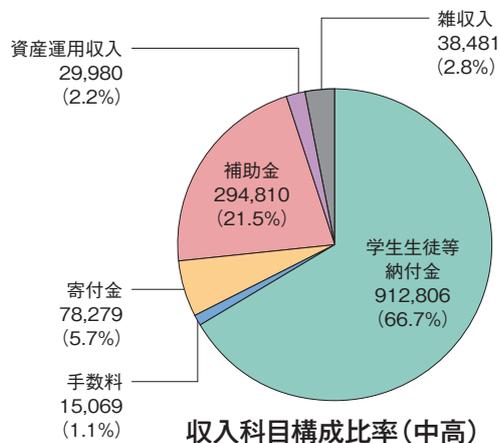
■中高の部

(単位:千円、%)

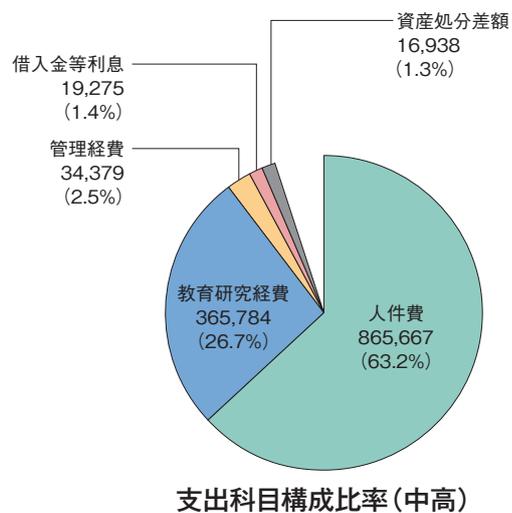
(単位:千円、%)

	科 目	金 額	構 成 比 率
消費 収 入	学生生徒等納付金	912,806	66.7%
	手 数 料	15,069	1.1%
	寄 付 金	78,279	5.7%
	補 助 金	294,810	21.5%
	資 産 運 用 収 入	29,980	2.2%
	雑 収 入	38,481	2.8%
	帰 属 収 入 合 計	1,369,425	100.0%
	基 本 金 組 入 額	△ 164,250	△12.0%
	消費収入の部合計	1,205,175	88.0%
消 費 支 出	人 件 費	865,667	63.2%
	教 育 研 究 経 費	365,784	26.7%
	管 理 経 費	34,379	2.5%
	借 入 金 等 利 息	19,275	1.4%
	資 産 処 分 差 額	16,938	1.3%
	消費支出の部合計	1,302,043	95.1%
消費収支差額		△ 96,868	

※上表及び円グラフの構成比率は、帰属収入を100とした場合の当該科目の比率となっております。



(単位:千円、%)



Ⅱ 財務の概要

■消費収支決算の推移(学園総括) 平成15年度から平成20年度まで

(単位:千円)

部門	項目	年度別					
		平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
学園 総 括	帰属収入	14,074,357	14,140,896	14,237,329	13,827,842	14,085,651	13,734,456
	基本金組入額	△ 1,693,787	△ 1,864,222	△ 1,933,977	△ 1,320,593	△ 5,067,350	△ 5,029,092
	消費収入	12,380,570	12,276,674	12,303,352	12,507,249	9,018,301	8,705,364
	消費支出	12,676,396	12,618,774	13,238,071	12,914,940	13,226,560	14,001,820
	消費収支超過額	△ 295,826	△ 342,100	△ 934,719	△ 407,691	△ 4,208,259	△ 5,296,456
	基本金取崩額	—	—	—	33,767	—	—
	消費収支超過額 累計	6,649,399	6,307,299	5,372,580	4,998,656	790,397	△ 4,506,059
	帰属収支差額	1,397,961	1,522,122	999,258	912,902	859,091	△ 267,364
	消費収支超過額 累計	47.2%	44.6%	37.7%	36.1%	5.6%	△32.8%
	帰属収入						

■財務状況の推移(学園総括) 平成15年度から平成20年度まで

(単位:千円)

部門	項目	年度別					
		平成15年度末	平成16年度末	平成17年度末	平成18年度末	平成19年度末	平成20年度末
学園 総 括	総資産	86,708,871	87,817,488	88,484,703	89,275,896	89,275,723	89,165,547
	固定資産	78,352,332	79,192,230	79,878,718	80,178,364	80,438,157	79,862,634
	有形固定資産	53,378,956	54,218,178	53,870,115	53,494,751	57,150,999	60,499,195
	その他の固定資産	24,973,376	24,974,052	26,008,603	26,683,613	23,287,158	19,363,439
	流動資産	8,356,539	8,625,258	8,605,985	9,097,532	8,837,566	9,302,913
	総負債	10,684,455	10,270,950	9,938,907	9,817,198	8,957,934	9,115,122
	固定負債	7,459,524	7,192,913	6,883,481	6,759,481	6,340,766	6,172,048
	流動負債	3,224,931	3,078,037	3,055,426	3,057,717	2,617,168	2,943,074
	基本金	69,375,017	71,239,239	73,173,216	74,460,042	79,527,392	84,556,484
	消費収支差額	6,649,399	6,307,299	5,372,580	4,998,656	790,397	△ 4,506,059
	正味財産	76,024,416	77,546,538	78,545,796	79,458,698	80,317,789	80,050,425

■財務比率の推移(学園総括) 平成15年度から平成20年度まで

(単位:%)

	比率	算式(×100)	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
貸借対照表関係	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	90.3 (85.2)	90.1 (85.8)	90.2 (86.3)	89.8 (86.3)	90.1 (86.8)	89.5
	自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	87.7 (84.2)	88.3 (84.5)	88.8 (85.0)	89.0 (85.6)	89.9 (86.4)	89.7
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	103.1 (101.1)	102.1 (101.6)	101.7 (101.5)	100.9 (100.7)	100.1 (100.4)	99.7
	固定長期適合比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}+\text{固定負債}}$	93.9 (90.9)	93.4 (91.7)	93.5 (92.3)	93.0 (92.0)	92.8 (92.2)	92.6
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	259.1 (233.4)	280.2 (221.6)	281.7 (211.9)	297.5 (218.8)	337.6 (222.7)	316.0
	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	12.3 (15.8)	11.6 (15.5)	11.2 (15.0)	11.0 (14.3)	10.0 (13.5)	10.2
	退職給与引当預金率	$\frac{\text{退職給与引当特定預金(資産)}}{\text{退職給与引当金}}$	52.4 (68.1)	50.0 (70.5)	51.9 (70.4)	50.4 (71.7)	50.0 (73.9)	50.0
償却引当預金率	$\frac{\text{償却引当特定預金(資産)}}{\text{償却引当金}}$	42.9 (14.4)	43.5 (16.6)	44.6 (17.1)	46.7 (17.7)	34.8 (19.4)	22.2	
消費収支関係	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	76.3 (74.2)	75.2 (73.9)	76.9 (72.0)	77.6 (72.6)	76.3 (71.3)	77.5
	寄付金率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	1.1 (2.2)	1.1 (2.4)	0.9 (4.4)	1.2 (1.9)	2.4 (3.9)	1.7
	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	9.4 (11.2)	13.2 (11.0)	10.8 (11.1)	9.8 (11.1)	9.6 (11.0)	10.5
	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	50.4 (49.2)	49.8 (49.7)	51.1 (48.5)	54.1 (49.0)	52.5 (48.3)	55.4
	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	66.1 (66.2)	66.2 (67.3)	66.5 (67.4)	69.7 (67.5)	68.7 (67.7)	71.4
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	32.5 (29.2)	33.3 (30.4)	33.0 (30.5)	32.8 (31.5)	32.6 (31.5)	35.5
	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	5.4 (6.7)	4.5 (7.0)	4.6 (6.9)	4.6 (6.9)	6.4 (7.1)	6.7
	消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	90.1 (87.2)	89.2 (88.7)	93.0 (87.6)	93.4 (89.2)	93.9 (88.9)	101.9
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	12.0 (17.8)	13.1 (14.9)	13.6 (16.2)	9.6 (15.4)	35.9 (15.1)	36.6	

(注) 総資金=負債+基本金+消費収支差額 ()内は全国理工他複数学部法人平均
自己資金=基本金+消費収支差額

Ⅲ 法人の概要

■名称	学校法人甲南学園		
■法人設立の年月日	大正7(1918)年12月20日		
■設置学校	甲南大学		
	◎岡本キャンパス	〒658-8501	兵庫県神戸市東灘区岡本8丁目9番1号
	◎西宮キャンパス	〒663-8204	兵庫県西宮市高松町8番33号
	◎ポートアイランドキャンパス	〒650-0047	兵庫県神戸市中央区港島南町7丁目1番20

	甲南高等学校・中学校	〒659-0096	兵庫県芦屋市山手町31番3号

■役員(平成21年3月31日現在)

理事¹

定数20~30名以内
現員29名

理事長
吉沢英成
副理事長
片岡睦夫
学長
高阪薫
校長
橋口誠
副学長
平松闊
重松利彦
学外理事
片山勉
菊池嘉人
藤尾益也
村津敬介
山田純嗣
市川典男
伊藤勲
乾英文
岸勤治
吉川精一
武田國男
野澤太一郎
平生甲一
松下正幸

学内理事	
文学部長	大津真作
理工学部長	安藤弘明
経済学部長	稲田義久
法学部長	中井伊都子
経営学部長	長坂悦敬
法科大学院長	渡辺顥修
会計大学院長	河崎照行
経済学部教授	岩崎晃
経済学部教授	佐藤治正

監事²

定数2~3名以内
現員3名

植村武雄
北村真
中西秀夫

評議員³

定数42~61名以内
現員60名

阿久澤亮
位原美智子
伊豫田隆俊
緒方正樹
佐藤治正
都染直也
土山敏夫
西田脩

狭間宏明
美馬幸治
藍原正宜
山内守明
岩田憲明
梅村昌生
長田正道
片岡睦夫
片山勉
京谷光雄
佐藤祐康
酢谷周爾
曾根英夫
高嶋良平
立野純三
西桂二郎
藤守皓雄
細谷俊雄
松谷齊泰
市川典男
岸勤治
重松利彦
平松闊
高阪薫
橋口誠
安藤弘明

稲田義久
大津真作
河崎照行
中井伊都子
長坂悦敬
渡辺顥修
神澤雄次郎
黄朝陽
富永健嗣
舟元章
吉田昇生
金澤博子
利倉典子
岩崎邦彦
上島一泰
加藤隆久
菊池嘉人
西原健治
藤尾益也
藤本真人
松井佐一郎
松田博志
村津敬介
山田篤彦
山田純嗣
吉沢英成

1学校法人の決議機関は理事会であり、私立学校法は、「学校法人に理事をもって組織する理事会を置く。」「理事会は学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。」としています。理事は理事会に参画し、学校法人の業務を決めていきます。

2監事は、理事と同じように学校法人の役員となっています。監事は監査機関であって、①学校法人の業務、②学校法人の財産の状況を監査することが主たる任務とされています。そのほか、監査報告書の作成、学校法人の業務又は財産の状況について、理事会に出席して意見を述べるともその職務とされています。監事は、評議員の同意を得て理事長が選任し、監事は、監査の公正を保つために、理事、評議員又は学校法人の職員と兼ねてはならないこととされています。

3評議員会は、学校法人の重要事項について、理事長から意見を求められ、理事長に対して意見を述べる諮問機関としての役割があります。予算の決定、基本財産の処分、寄附行為の変更等の重要案件については、理事長はあらかじめ評議員から意見を聞かなければならないこととされています。

■土地と建物(平成20年5月1日現在)

土地面積

大学	271,570.80㎡
高等学校・中学校	45,791.00㎡
フランス甲南学園トウレーヌ高等部・中等部	12,090.00㎡
その他(職員住宅等)	7,409.08㎡
土地面積総合計	336,860.88㎡

建物面積

大学	117,441.63㎡
高等学校・中学校	17,846.01㎡
フランス甲南学園トウレーヌ高等部・中等部	6,315.84㎡
その他(職員住宅等)	1,624.75㎡
建物面積総合計	143,228.23㎡

■専任教職員数(平成20年5月1日現在)

大学・大学院・センター・研究所

	文 学 部	理 工 学 部	経 済 学 部	法 学 部	経 営 学 部	知 能 情 報 学 部	教育研究センター スポーツ・健康科学	国 際 語 文 化 セ ン タ ー	E B A 高 等 教 育 所	情 報 教 育 研 究 セ ン タ ー	国 際 交 流 セ ン タ ー	教 職 教 育 セ ン タ ー	先 端 生 命 工 学 研 究 所	法 科 大 学 院	会 計 大 学 院	合 計
教 授	38	26	19	15	20	10	3	5	2	1	0	2	0	26	12	179
准 教 授	13	14	6	6	3	5	3	7	0	1	1	0	0	1	1	61
講 師	0	4	0	3	1	4	1	8	5	0	0	0	3	0	0	29
合 計	51	44	25	24	24	19	7	20	7	2	1	2	3	27	13	269

※実務家教員を含む。

高等学校・中学校

教 諭	契 約 教 員	養 護 教 諭	司 書 教 諭	合 計
53	4	1	1	59

職員

専 任	嘱 託	合 計
154	33	187

■学生・生徒数(平成20年5月1日現在)

大学

学 部	入 学 定 員	編 入 定 員	収 容 定 員	実 員
文 学 部	400	10	1,620	1,933
理 工 学 部	195	-	780	1,476
経 済 学 部	350	-	1,400	1,673
法 学 部	350	-	1,400	1,785
経 営 学 部	345	-	1,380	1,629
知 能 情 報 学 部	120	-	480	136
EBA総合コース	-	-	-	137
合 計	1,760	10	7,060	8,769

※理学部在籍者は理工学部計上しています。

高等学校・中学校

学 校	入 学 定 員	定 員	実 員
高 等 学 校	215	645	644
中 学 校	175	525	548

大学院

研 究 科	課 程	入 学 定 員	収 容 定 員	実 員	課 程	入 学 定 員	収 容 定 員	実 員
人 文 科 学 研 究 科	修 士	26	52	48	博 士	10	30	24
自 然 科 学 研 究 科	修 士	35	70	85	博 士	8	24	10
社 会 科 学 研 究 科	修 士	20	40	20	博 士	3	9	5
合 計		81	162	153		21	63	39

専門職大学院

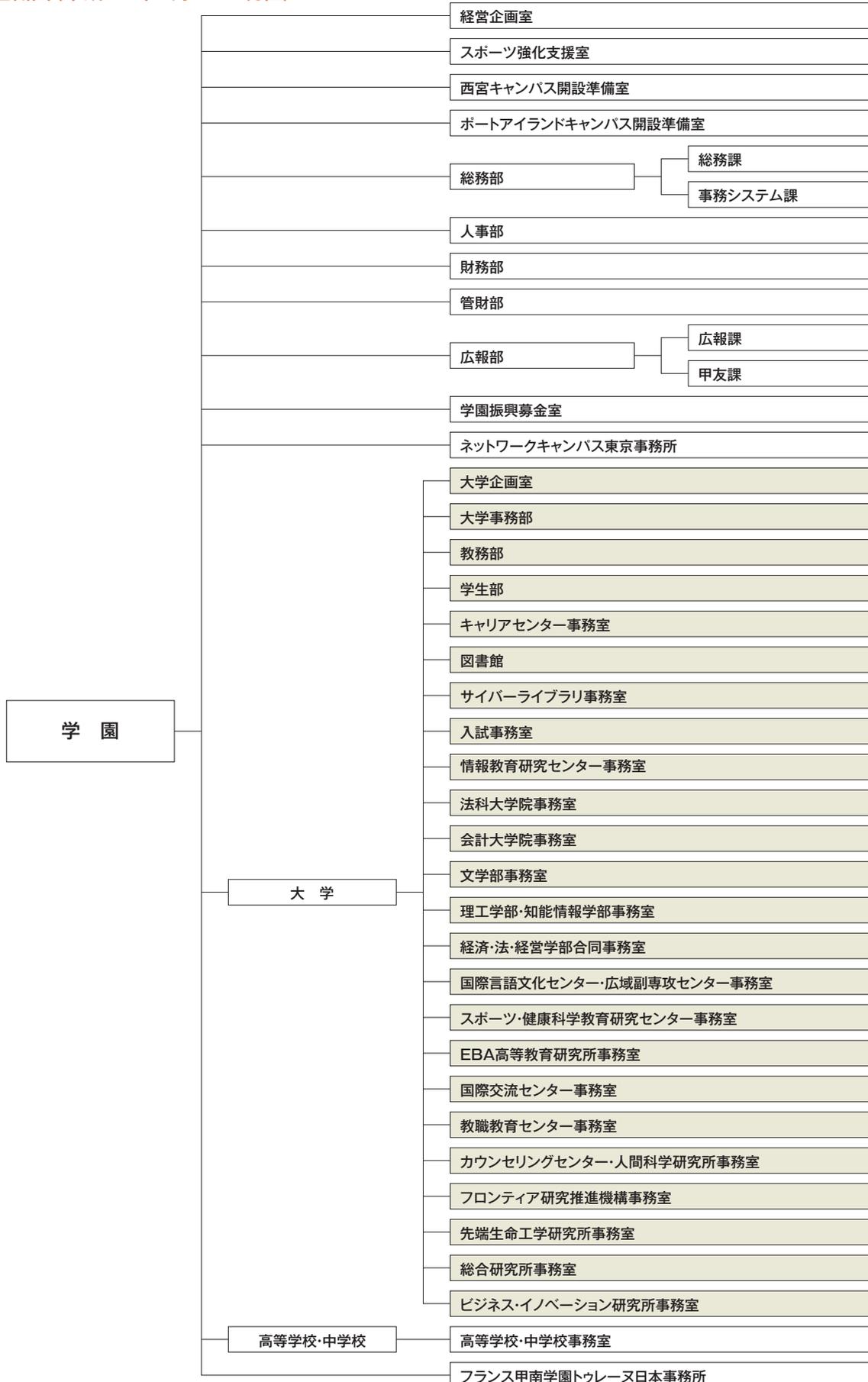
研 究 科	課 程	入 学 定 員	収 容 定 員	実 員	課 程	入 学 定 員	収 容 定 員	実 員
法 学 研 究 科	-	-	-	-	法 務 博 士	60	180	197
ビ ジ ネ ス 研 究 科	会 計 修 士	30	60	59	-	-	-	-
合 計		30	60	59		60	180	197

■卒業生累計数(平成21年3月31日現在)

7 年 制 高 等 学 校	871
新 制 高 等 学 校	10,356

学 部	84,351
大 学 院 (修 士)	1,857
大 学 院 (博 士)	73
専 門 職 大 学 院	237

■ 事務組織図 (平成21年3月31日現在)



発行 平成21年6月

この冊子に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1

学校法人甲南学園 総務部総務課

TEL. (078) 435-2305

FAX. (078) 435-2548

e-mail sohmu@adm.konan-u.ac.jp



**甲南大学
甲南大学大学院**

◎岡本キャンパス

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1
TEL.(078)431-4341(大代表)

◎西宮キャンパス

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町8-33
TEL.(0798)63-5741

◎ポートアイランドキャンパス

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町7-1-20
TEL.(078)303-1457
ホームページ <http://www.konan-u.ac.jp>

甲南高等学校・中学校

〒659-0096 兵庫県芦屋市山手町31-3
TEL.(0797)31-0551(代表)
ホームページ <http://www.konan.ed.jp>

フランス甲南学園トゥレーヌ高等部

<日本事務所>

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1
TEL.(078)431-4341(大代表)
(078)453-0115(直通)

ホームページ <http://www.t-konan.jp>